intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver.7.0

Service Platform 設定ガイド

2014/05/30 第 10 版

<< 変更履歴 >>

変更年月日	変更内容
2008/07/07	初版
2008/09/30	第 2 版 ・「4.3.2.24 ForbiddenException をスローするフィルタ」を追記しました。
2009/02/27	第 3 版 ・「4.3.2.3 リクエストを制限するフィルタ1 (RequestQueryLengthMonitoringFilter)」および「4.3.2.4リクエストを制限するフィルタ2 (RequestControlFilter)」のスローする例外クラス名を修正しました。 ・「4.1.6.2.3.1 Web サーバが HTTPS プロトコルを使用している場合の ScheduleSrv 設定方法」を追記しました。 ・「4.3.2.25 Web ブラウザのキャッシュを制御するためのフィルタ」を追記しました。 ・「4.3.2.26 レスポンスを返却する際にロックを自動的に解除するためのフィルタ」を追記しました。
2009/06/30	第 4 版 ・ 一部語句の修正を行いました。
2009/10/30	第 5 版 ・「4.3.2.27 ログインしている状態にログイン画面を表示しようとした際に警告ページを表示するためのフィルタ」を追記しました。
2010/11/30	第 6 版 ・「4.1.2.3 intra-mart/platform/service/application/http/accept/query/length/max」のデフォルト値を修正しました。 ・「4.1.2.4 intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/queue」のデフォルト値を修正しました。 ・「4.1.2.5 intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/query/length/min」のデフォルト値を修正しました。 ・「4.3.2.21 ブラウザにページをキャッシュさせないためのフィルタ2」を追記しました。 ・「4.4 メール送信設定」を追記しました。
2011/06/30	第 7 版 ・「4.3.2.28 アップロードするファイルをチェックするフィルタ」を追記しました。 ・「4.2.1 文字エンコーディング」の誤植を修正しました。
2012/03/26	第 8 版 ・「4.1.2.11 intra-mart/platform/service/application/popup-window」のデフォルト値を修正しました。 ・「4.1.2.12 intra-mart/platform/service/application/tree-view」のデフォルト値を修正しました。 ・「4.1.9.9.3 注意」に%SYSTEMCLASSPATH%の説明を追記しました。 ・「4.1.2.29.2 説明」の設定値「Never」の説明を追記しました。
2013/10/18	第 9 版 ・「4.1 conf/imart.xml」のデフォルト値を追加・修正しました。
2014/05/30	第 10 版 ・「4.1 conf/imart.xml」のデフォルト値を追加・修正しました。

<< 目次 >>

1 はじめに 1
1.1 用語解説 1
2 設定ファイル 2
2.1 設定ファイルの種類 2
2.2 設定ファイルの編集に関する注意点 2
3 機能と設定 3
3.1 環境 3
3.1.1 Web アプリケーション 3
3.1.2 クラスパス 3
3.2 サーバ 4
3.2.1 サーバの設定に関する注意点 4
3.2.2 設定ファイルとサーバ実行時ステータス 5
3.2.3 サーバの機能と設定方法 5
3.3 フォールトトレランス環境の設定 9
3.3.1 Service-Platform のフォールトトレランス 9
4 設定ファイルと設定項目 11
4.1 conf/imart.xml 11
4.1.1 ネットワーク機能部 11
4.1.2 サービス部(Application Runtime) 31
4.1.3 サービス部(Storage Service) 72
4.1.4 サービス部(Shared-memory Service) 74
4.1.5 サービス部(Permanent-data Service) 75
4.1.6 サービス部(Schedule Service) 84
4.1.7 サービス部(Resource Service) 95
4.1.8 サービス部(Serialization Service) 99
4.1.9 基本機能部 101
4.2 source-config.xml 115
4.2.1 文字エンコーディング 115
4.2.2 JavaScript コンパイラの設定 115
4.2.3 JavaScript 最適化レベル 116
4.2.4 View コンパイラの設定 116
4.3 doc/imart/WEB-INF/web.xml 117
4.3.1 Servlet 117
4.3.2 Filter 126
4.4 メール送信設定 144
4.4.1 conf/mail/contentType.properties 144
4.4.2 conf/mail/encode.properties 144
4.4.3 conf/mail/javaMail.properties 145
4.4.4 conf/mail/mailSendListener.xml 145
4.4.5 conf/mail/smtpAuth.properties 146
5 サポート 147
6 索引 148

1 はじめに

本ドキュメントは、intra-mart WebPlatform / AppFramework をご利用になられる方のための設定手引書です。

1.1 用語解説

intra-mart WebPlatform	以下、IWP と略します。
intra-mart AppFramework	以下、AppFramework と略します。
WebServer-Connector	WebServer との連携用モジュールです(BM のみ)。以下、WSC と略します。
intra-mart Server Manager	システム全体を管理するサーバです。以下、imSM と略します。
intra-mart Service Platform	サービスを起動するためのサーバ本体です。以下 imSP と略します。
Application Runtime	アプリケーションの実行エンジンです。以下、AppRSrv と略します。
Resource Service	プログラムファイルを管理するサービスです。以下、RSrv と略します。
Shared-Memory Service	共有メモリを管理するサービスです。以下、SMSrv と略します。
Permanent-Data Service	永続データを管理するサービスです。以下、PDSrv と略します。
Serializasion Service	排他制御機能のためのサービスです。以下、SerializeSrv と略します。
Storage Service	ファイルを管理するサービスです。以下、StorageSrv と略します。
Schedule Service	バッチの時間起動を制御するサービスです。以下、ScheduleSrv と略します。
intra-mart Administrator	システム全体の状態を見るためのビューアです。以下、imAdmin と略します。

2 設定ファイル

2.1 設定ファイルの種類

intra-mart は、その目的別に複数個の設定ファイルを持っています。
それぞれの設定ファイルについて十分に理解をした上で、設定を編集して下さい。

conf/imart.xml	intra-mart サーバの動作を決定する設定ファイル
conf/data-source.xml	ログイングループとデータソースの関連付けに関する設定ファイル
doc/imart/WEB-INF/web.xml	Web-Application として動作するための設定
pages/src/source-config.xml	スクリプト開発モデルのソースと実行に関する定義ファイル

2.2 設定ファイルの編集に関する注意点

設定ファイルを編集した場合、その変更内容をサーバの動作に反映させるには、該当するサーバの再起動が必要です。（一部、再起動が必要ないものもあります）
すでにサービスの運用を開始している環境に対して設定ファイルを編集する場合は、メンテナンス時間を設けて全てのサーバを停止した後に作業を行うようにしてください。運用中のサーバに対して設定ファイルを編集することや、ネットワーク連携しているサーバのうち1つまたはすべてではない複数のサーバに関してのみ（他のサーバは運用を継続）設定を変更した場合、予期せぬエラーの原因となることがあります。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3 機能と設定

3.1 環境

intra-mart のサーバは、その動作時に任意設定とは別にデフォルトの環境があります。以下に説明されるデフォルトの環境を上手に利用して運用環境構築にお役立て下さい。

3.1.1 Web アプリケーション

intra-mart の各機能の集合は1つの Web アプリケーションとして実装されています。したがって、標準の Web アプリケーションの範囲内（doc/imart）に任意のプログラムを実装する場合は問題ありませんが、任意の新しい Web アプリケーションを作成する場合は、intra-mart 独自の各種 API を利用することができませんのでご注意ください。（任意の Web アプリケーションでは、一般的な Web アプリケーションの作成方法にしたがってプログラミングしていくことになります）

また、エクステンションズ（PDF-Designer など）により追加される API も、任意に作成した Web アプリケーションでは利用することができません。

なお、外部ソフトウェア接続モジュールを利用することにより、任意の Web アプリケーションで intra-mart 独自の各種機能および API を利用することができます（タグライブラリ等の一部の機能は利用できません）。

3.1.2 クラスパス

サーバはデフォルトで下記ディレクトリをクラスパスとして認識します。

％インストールディレクトリ％/classes/

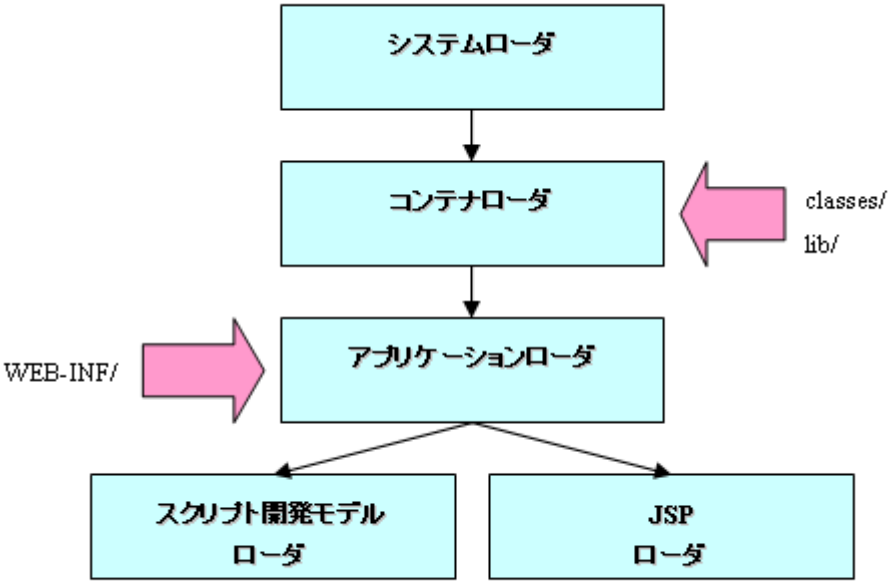
したがって、クラスパスを定義しなくても classes ディレクトリ内にクラスを保存することによって動作することが可能です。
クラスのアーカイブファイル（jar や zip）の場合は、下記ディレクトリ内に入れることでシステムが自動的に認識します。

％インストールディレクトリ％/lib/

例えば、JDBC ドライバなどを上記ディレクトリ内にコピーすることでクラスパスの設定をしなくてもシステムに反映することが可能です。ただし、いずれの場合もサブディレクトリまでは検索しませんので、例えば lib/mydir/foo.jar というファイルを作成してもクラスロードされません。

なお、上記ディレクトリは、システムの低層部分のクラスローダによってロードされるため intra-mart 独自の API を利用したクラスや、Web アプリケーションなどをコピーした場合、クラスロードに失敗します。
intra-mart サーバのクラスローダは多重構成となっていますので、そのクラスの性質や目的および実装形態により配置場所に十分注意してください。特に、intra-mart 独自の API を利用して作成されたクラスは、そのクラスを運用するサービスの種類により、配置場所が異なりますので注意してください。

サービス	配置場所
Application Runtime	Web アプリケーション層（doc/imart/WEB-INF）
Application Runtime 以外（分散時）	コンテナ層（%インストールディレクトリ%/classes または%インストールディレクトリ%/lib）



例）intra-mart WebPlatform の Application Runtime のクラスローダの構造

3.2 サーバ

intra-mart サーバは、その運用形態により様々な種類が存在します。
サーバの運用形態は、大きく分けて次の2種類になります。

- 1つのサーバプロセスのみで運用を行う Standalone 型
- サーバプロセスを機能毎に分散させたネットワーク分散型

いずれの形態においても、サーバプロセスに関する主な設定は conf/imart.xml で行うことが基本となります。通常は intra-mart Administrator（サーバプロセスの監視および管理用GUIツール）で設定することが可能ですが、intra-mart Administrator では設定できない各機能の詳細な設定を行う場合は、設定ファイル（conf/imart.xml など）を直接編集して下さい。（設定ファイルを直接編集する場合は、編集前に設定ファイルをバックアップしておきましょう）

3.2.1 サーバの設定に関する注意点

AppRSrv および Standalone 型サーバは JSP およびサーブレットに関する設定が必要になります。これら JSP やサーブレットなどは、Web の仕組に密接に関連しているため、Web サーバの動作の仕組やネットワークについての知識が必要になります。必要に応じて、他の文献を参考にしたりネットワーク管理者の協力を得たりしながら環境構築を行って下さい。
特にサーバ環境をネットワーク分散型で構築する場合、各サーバの設定内容に矛盾がないようにしなければなりません。必ず設定前に、これから構築しようとしているサーバ環境について設定方法を十分に検討しておきましょう。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.2 設定ファイルとサーバ実行時ステータス

サーバ実行時の挙動については、設定ファイル conf/imart.xml に設定を記述することは説明の通りですが、この設定ファイルの内容と実際の動作環境では、ステータスに差違があります。
サーバ実行時の内部ステータスは、サーバ実行時に作成されるステータス通知ファイル environment.txt（サーバをインストールしたディレクトリ内に自動的に作成されます）により知ることができます。サーバの実行環境について知る必要がある場合には、このステータス通知ファイル environnment.txt を参照して下さい。

3.2.3 サーバの機能と設定方法

ここでは、サーバの持つ具体的な機能とその設定方法について説明します。

3.2.3.1 サーブレット

JavaEE 開発モデルによるアプリケーション開発を行う場合、設定ファイルへの自作のサーブレットの定義が必要になる場合があります。なお、サーブレット設定は web.xml という定義ファイル(標準では、AppRSrv インストールディレクトリの doc/imart/WEB-INF にあります)において定義することができます。

3.2.3.2 データベース接続機能

データベース接続に関する設定は、 WebApplication Server 側にデータソースを予め設定しておく必要があります。データソースに関しては、ご利用の WebApplication Server 製品により設定方法が異なりますので、各製品の仕様に合わせて適切にデータソースを設定してください。
データベース接続設定は、設定された DataSource への関連付けを設定ファイル conf/data-source.xml にて定義します。これにより、データベース連携 API は、関連付けられた DataSource を利用してデータベースへアクセスします。

複数の DataSource 設定を同時に定義することにより、マルチデータベース機能やマルチログイングループ機能を利用することができます。DataSource の接続参照名をユニークに定義して、データベース接続設定画面にて関連付け設定を行ってください。

なお、JDBC ドライバの設定等は、利用するデータベース製品により設定方法が異なりますので、設定方法に関しては各データベース製品のドキュメントを参照するか各ベンダーにお問い合わせ下さい。

3.2.3.3 ネットワークコネクションの設定

各サーバ間のネットワーク連携において、TCP コネクション数を制限するための機能が用意されています。（サーバ間 TCP コネクションプール機能） この機能は、サーバが他のサーバに対して TCP セッションを作成する数を制限するもので、セッション受付数を制限する機能ではありません。
例えば、AppRSrv のネットワークコネクション設定を 2 にした場合、AppRSrv が RSrv などその他の imSP に対して生成する TCP コネクションの数は 2 を上限として、生成された 2 つのコネクションをすべてのスレッド実行で共有します。

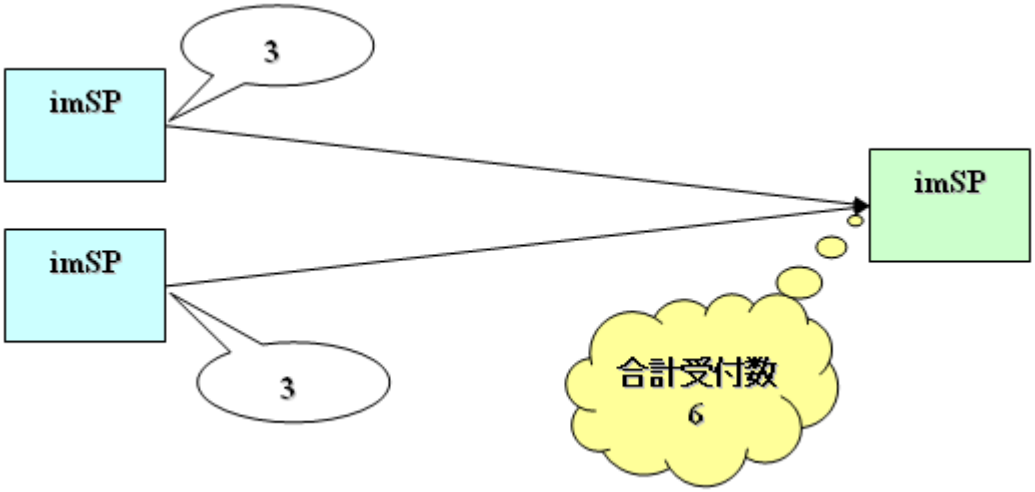
3.2.3.3.1 設定方法

設定ファイル（conf/imart.xml）の platform/network/client タグで設定します。
コネクション数を制限することにより、サーバのリソース不足になることを未然に防ぐことができます。あまり設定値を絞りすぎてしまうとパフォーマンスが低下してしまいますが、大きな値を設定するとサーバが不安定になる危険性が高いことを考慮した上で適切な値を設定してください。

3.2.3.3.2 設定における注意点

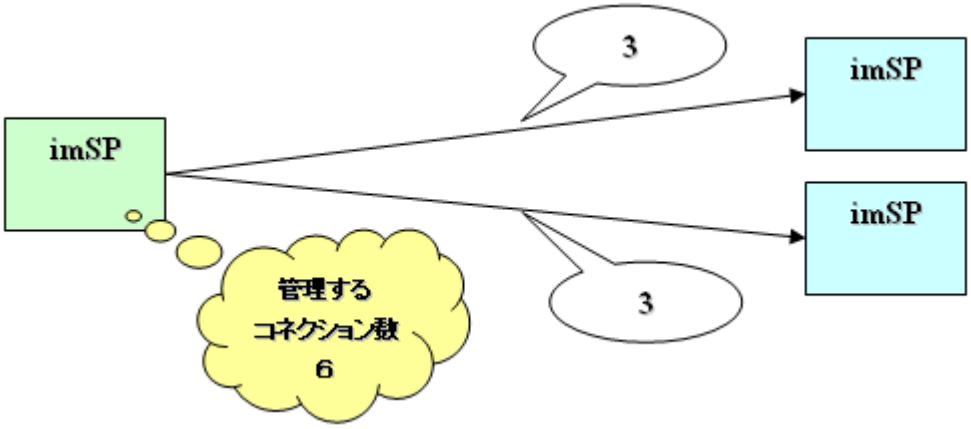
この機能は、運用するサーバ環境に合わせて適切に設定するようにして下さい。

この設定は、ネットワークセッション要求側の設定になります。



このように、設定数が少なくても接続しようとするサーバプロセスが増えるにしたがって、TCP コネクション受付側の負荷は高くなってしまいます。コネクションの受け側となるサーバ環境も考慮して設定をするようにして下さい。

また、この設定は1つのサーバプロセスに対するコネクション数の制限値となりますが、接続対象のサーバが複数ある場合、その一つ一つの接続先サーバに対するコネクションについてこの設定値が適用されます。したがって、サーバが管理する TCP コネクション数の合計値は、設定値 × 接続対象となるサーバの台数 となります。



これらのことを十分に理解した上で、サーバのパフォーマンスおよびリソースを考慮して設定してください。

3.2.3.3.3 intar-mart が使用するサーバポート

intra-mart では、以下のサーバポートを利用します。

サーバ	ポート番号
Server-Manager	インストーラで指定したポート 32116 番ポート(固定:変更できません)
Service-Platform (Application-Runtime が動作している環境を除く)	インストーラで指定したポート
Service-Platform (Application-Runtime が動作している環境)	インストーラで指定したポート 4123 番ポート [1]

[1] 「4.1.2.6 intra-mart/platform/service/application/http/controller/network/port」を参照

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.2.3.4 ラウンドロビンと文字コード設定

ネットワーク分散型構成でサーバを運用する場合、AppRSrv を複数稼動させてラウンドロビン機能を利用することになります。この時、各 AppRSrv の文字コード設定に関して以下の制約があります。

3.2.3.4.1 サーバ側文字コードの設定

サーバ側で扱う文字コードの設定です。これは、intra-mart/server-charset 設定で指定します。
この設定は、サーバがファイルの入出力時に Unicode との文字コード変換をする際に利用します。したがって、サーバをインストールした環境に合わせて設定して下さい。（通常は、インストール時に決定されています）

3.2.3.4.2 クライアント側文字コードの設定

ブラウザに対してページソースを送信する際に利用する設定です。
この設定は、ページプログラムを実行した結果をブラウザに送信（表示）する場合に、送信（表示）するページソースの文字コードになります。この設定がサーバ側文字コードと一致していると、文字化けの発生が少なくなります。
クライアントとして i-mode を利用する場合、この設定は必ず Shift_JIS を設定して下さい。（i-mode は Shift_JIS で作成された画面しか表示できない仕様となっているため）

3.2.3.5 JavaScript コンパイラ機能

ファンクションコンテナを Java のクラスにコンパイルする機能です。（この機能はスクリプト開発モデルが対象です）
JavaScript コンパイラの設定は、pages/src/source-config.xml で行います。コンパイラを利用しない場合、ファンクションコンテナは JavaScript インタプリタで実行されます。

3.2.3.5.1 JavaScript コンパイラ設定に関する注意点

JavaScript コンパイラを利用すると、work/jssp/_functioncontainer ディレクトリにクラスファイルが作成されます。ソースの更新が反映されない場合は、このディレクトリを削除してからサーバを動作させてみて下さい。
work/jssp/_functioncontainer ディレクトリ内に不要なクラスファイルが存在し、そのクラスファイルを更新することが出来ない場合、ソースファイルの変更が反映されないなどの動作不良の原因になります。

3.2.3.5.2 JavaScript コンパイラ利用時の注意点

JavaScript コンパイラを利用した場合、ファンクションコンテナのソースファイル（js）から Java クラスファイルが生成されます。クラスファイルは、AppRSrv のインストールディレクトリ内 work/jssp/_functioncontainer ディレクトリに保存されます。一度クラスファイルが作成されると、ソースファイルの更新有無に関わらず、常にそのクラスファイルで動作します。ソースの更新を反映したい場合は、サーバを再起動しなければいけません。
開発中など、頻繁にソースが更新され、そのソースの更新を即座（サーバを停止させず）に実行に反映させたい場合は、コンパイラは利用せずにインタプリタモード（resource-file/javascript/compiler/eneable を false に設定）で運用してください。

3.2.3.6 自動復旧機能(サーバプロセスのフェールセーフ)

imSP にはフェールセーフ機能として、サーバ本体プロセスが何らかの原因で停止してしまった場合に、自動的に本体プロセスを再起動する機能が実装されています。この機能は、<fail-safe>タグにより設定することができます。この機能は、その性質および動作を十分に理解した上で、正しくご活用してください。

3.2.3.6.1 フェールセーフ機能の注意点

imSP のフォールトトレランス機能の一部であるフェールセーフ機能は、そのサーバ自身のフェールオーバ機能となります。同じサービスを複数台並列動作させるフェールオーバとは異なります。

このため、同じサービスの複数台並列運用によるフォールトトレランス機能を利用している環境においては、フェールセーフ機能によりサーバが自動再起動してしまった場合、サーバの起動順を正常に認識することが難しく、サーバ関連系において意図しないサーバプロセスに処理要求をしてしまうことがあります。

サーバのフェールセーフ機能は、プロセスのフェールオーバ環境を作ることができない環境における補助的な機能としてお考えください。

また、このフェールセーフ機能は、intra-mart がサーバプロセスとして独立して動作していることが前提となります。intra-mart が連携する他のサーバプロセスや、intra-mart AppFramework における AppRSrv（StandAlone 型も含む）に関しては設定を有効にしても機能しません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

3.3 フォールトトレランス環境の設定

ここでは、システムのフォールトトレランスに関する設定方法を説明します。
対象となる機能ごとにフォールトトレランスの動作仕様および設定方法が異なりますので、運用するシステムに適した方式を選択して、設定を行ってください。

3.3.1 Service-Platform のフォールトトレランス

intra-mart の Service-Platform はフォールトトレランス機能を持っています。Service-Platform で稼動させるある一つのサービスについて、他の Service-Platform でも同じサービスを運用させることにより intra-mart システム中に同じサービスが稼動系と待機系という形で運用することができます。
各サービスにより、待機系サーバを持つ場合の動作が若干ことなりますので、各サービスの動作仕様を十分に理解した上で運用環境を構築してください。

3.3.1.1 Application Runtime のフォールトトレランス

AppRSrv は、システム内に複数稼動させることにより、負荷分散を兼ねたフェールオーバ環境を構築できます。
ただし、設定方法や分散時の動作仕様に関しては、WebApplication Server の機能仕様に依存します。

3.3.1.2 Resource Service のフォールトトレランス

RSrv では、フェールオーバ機能を利用するために稼動系サーバと待機系サーバが同一のファイルリソースを参照するように設定する必要があります。RSrv において共有しなければならないファイルリソースは、プログラムファイルディレクトリで、intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path で設定します（設定は、設定ファイル conf/imart.xml で行います）。
設定項目には絶対パス形式で指定が可能なので、例えば Windows 環境であればプログラムディレクトリにネットワークドライブ設定をすることによりサーバ間で共有することが可能です。
プログラムディレクトリは、インストール時には RSrv をインストールしたディレクトリ内の pages ディレクトリに設定されていますので、共有をやりやすいように移動するなどして環境に合わせて適切に設定してください。

3.3.1.3 Shared-memory Service のフォールトトレランス

このサービスは、単純に待機系サーバを用意するだけで自動的にフェールオーバ機能が働きます。
ただし、サーバ障害時にフェールオーバした場合、それまでの稼動系サーバが蓄えた情報を待機系サーバが引き継いで運用を継続しなければなりませんので、システム稼動中は常に稼動系サーバと待機系サーバが連絡の同期処理をおこなっています。
したがって、SMSrv について待機系をシステム内に構築する場合は、待機系サーバ起動時に一時的にシステム全体のパフォーマンスが低下したり、SMSrv を頻繁に利用するアプリケーションのパフォーマンスが低下することがあります。特に、SMSrv と多量のデータ通信（巨大データの保存や取得）をすることはパフォーマンス低下の大きな要因となってしまいますので、アプリケーション開発時には運用環境のシステム構成のことを考慮するようにしましょう。

3.3.1.4 Permanent-data Service のフォールトトレランス

このサービスは、永続データをファイルに管理するため、保存ファイルを稼動系と待機系で共有する必要があります。PDSrv において共有しなければならないファイルリソースは、データ保存ディレクトリで、intra-mart/platform/service/permanent/treasure-root で設定します（設定は、設定ファイル conf/imart.xml で行います）。

設定項目には絶対パス形式で指定が可能なので、例えば Windows 環境であればプログラムディレクトリにネットワークドライブ設定をすることによりサーバ間で共有することが可能です。
データ保存ディレクトリは、インストール時には PDSrv をインストールしたディレクトリ内の treasure ディレクトリに設定されていますので、共有をやりやすいように移動するなどして環境に合わせて適切に設定してください。
なお、データの定期バックアップ機能（intra-mart/platform/service/permanent/history で設定）については、稼動系サーバのみの機能となります。待機系サーバについては、設定が無視されます。

3.3.1.5 Serialization Service のフォールトトレランス

SerializeSrv については、待機系サーバを用意することで自動的にフェールオーバ機能が働きます。この SerializaSrv は、稼動系と待機系が常に同期をとりながら動作するため、待機系を持つことでシステムのパフォーマンスに若干の影響を与えます。

3.3.1.6 Storage Service のフォールトトレランス

StorageSrv では、管理するファイルリソースを稼動系と待機系で同一のファイルリソースを参照するように共有させる必要があります。StorageSrv において共有しなければならないファイルリソースは、ファイル保存ディレクトリで、intra-mart/platform/service/storage/file-root で設定します（設定は、設定ファイル conf/imart.xml で行います）。
設定項目には絶対パス形式で指定が可能なので、例えば Windows 環境であればプログラムディレクトリにネットワークドライブ設定をすることによりサーバ間で共有することが可能です。
データ保存ディレクトリは、インストール時には StorageSrv をインストールしたディレクトリ内の storage ディレクトリに設定されていますので、共有をやりやすいように移動するなどして環境に合わせて適切に設定してください。

3.3.1.7 Schedule Service のフォールトトレランス

ScheduleSrv は、待機系サーバを用意するだけで自動的にフェールオーバ機能が働きます。
また、実際にバッチプログラムが動作する AppRSrv を複数用意しておき、設定した接続 URL でラウンドロビン設定しておくことにより、バッチプログラムの実行環境もフェールオーバさせることができます。

3.3.1.8 Service-Platform のフェールオーバ機能に関する注意点

imSP は imSM によりその運用状況を監視され、システム全体は imSM により管理されています。
imSP（正確には、imSP 上で動作している各サービス）の稼動系と待機系については起動順により決定されます。先に起動した方が稼動系となりますので、待機系にしたいサーバは起動のタイミングを遅らせるようにしてください。
サーバのフェールオーバ機能に関しては imSM がシステム全体を管理していることにより、ダウンしたサーバはシステムから自動的に切り離され、新規に立ち上がったサーバは自動的にシステムに加えられるようになっています。
imSM が正常に稼動していない状態では、フェールオーバ機能が正常に働かないことがありますので、imSM がダウンしてしまった場合には、早急な復旧をすることが望まれます。

ただし、システムがサーバの稼動状況を知ることの難しいハードウェア障害が発生してしまった場合、該当のサーバをシステムから切り離すまで多少時間がかかってしまったり、一時的に誤動作を起こすことがあります。
特に、ネットワークケーブルの断線などのネットワークインフラ障害に関しては、サーバプロセスがダウンしてしまったわけではないので、ネットワークが復旧することによりシステムに再登録されてしまいますが、サーバの順位付けなどのサーバ内部情報に狂いがでてしまうことがあります。このような場合は、断線によって切り離されてしまったサーバを一度停止させた後再起動することにより、ただしくシステムに認識させるようにしてください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4 設定ファイルと設定項目

ここでは、各設定ファイルの設定項目と設定内容をについて説明します。
各設定項目のステータス表の中で使われている記号は、関連性の度合いを表しています。各記号の関係は、下に示す関係式のとおりです。
－ ＜ ○ ＜ ◎
※設定項目のデフォルト値はスタンドアロン環境の場合を例として記述しています。

4.1 conf/imart.xml

4.1.1 ネットワーク機能部

intra-mart サーバの実行に関する設定です。この設定は、すべてのサーバで必要になります。

4.1.1.1 intra-mart/administration/host/address

imSM のネットワークに関する設定です。

4.1.1.1.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/administration/host/address</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<administration>
  <host address=""></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ネットワークアドレス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">インストール時に設定したホストアドレス</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.1.1.2 説明

imSM の動作しているコンピュータのアドレスを指定してください。各 imSP は、この設定値を利用して imSM に接続を試みます。

4.1.1.1.3 注意

この設定値が間違っていると、システムが起動しなかったり、別なシステムに接続してしまって、意図したシステムを構築できなくなる可能性があります。なお、この設定値は、TCP/IP で解決できるアドレスを指定してください（IP アドレスでもホストアドレスでもどちらでも接続することができます）。

4.1.1.2 intra-mart/administration/network/port

imSM のネットワークに関する設定です。

4.1.1.2.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/administration/network/port</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<administration>
<network port=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">インストール時に設定したポート番号</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.1.2.2 説明

imSM がサービスを提供するポート番号です。imSM では、この設定値をサーバポートとして開きます。各 imSP は、この設定値を用いて imSM に接続を試みます。

4.1.1.2.3 注意

この設定値が間違っていると、システムが起動しなかったり、別なシステムに接続してしまって、意図したシステムを構築できなくなる可能性があります。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1.3 intra-mart/administration/network/timeout

imSM のネットワークに関する設定です。

4.1.1.3.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/administration/network/timeout</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<administration>
<network timeout=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">30</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.1.3.2 説明

imSM とのネットワーク通信におけるリクエストタイムアウト設定です。imSM と各サービスまたは imSP が通信する場合に、お互いのリクエストに対する応答を待つ時間で、この設定値よりも応答が遅い場合はタイムアウトが発生してしまいます。タイムアウト後は、再接続が行われるまで正常に連携できなくなります。（再接続は自動的に行われるので、タイムアウト後に管理者による復旧作業等は必要ありません。ただし、再接続が行われるまではしばらく時間がかかりますので、正常運用に戻るまでに数分かかってしまうことがあります。）

4.1.1.3.3 注意

通常は変更する必要がありません。

4.1.1.4 intra-mart/administration/network/server/backlog

imSM のネットワークに関する設定です。

4.1.1.4.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/administration/network/server/backlog</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<administration>
  <network>
  <server backlog=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td>○</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td><td></td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td><td></td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td><td></td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td>－</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">個</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-255</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">8</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.1.4.2 説明

imSM がサービスを提供するサーバポートの待ち受け要求数です。

4.1.1.4.3 注意

この設定は、サーバ内で処理待ちとなるネットワーク要求の待ち行列に関する設定です。サーバが処理中で設定されている待ち行列も飽和している場合、サーバが多量の要求を受け付けたときにビジー状態となります。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1.5 intra-mart/administration/network/server/threads

imSM のネットワークに関する設定です。

4.1.1.5.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/administration/network/server/threads</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<administration>
<network>
<server threads=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">個</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-255</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">3</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.1.5.2 説明

imSM が同時に処理することの出来るネットワーク用級数です。

4.1.1.5.3 注意

この設定を大きくしすぎると、サーバ内で多くの処理が並列に実行されるようになります。同時処理数に比例して実行時のメモリ消費量も増加しますので、設定の際には環境も含めて十分に注意が必要です。

各 imSP から imSM への処理要求のためのコネクション数は、1つの imSP あたり2つ（例外として、FW の AppRSrv の場合のみ1つです）となります。したがって、imSM が同時に受け付ける処理要求の最大数は、運用している imSP の2倍の数となります。逆の見方をすれば、imSP の個数の2倍よりも大きな値を設定しても、あまり意味がありません。

ただし、im-Administrator を利用中は、im-Administrator も imSM へ処理要求をすることになりますので、im-Administrator の利用頻度が高い場合は、この同時処理数設定も im-Administrator を考慮して1大きく設定してください。

4.1.1.6 intra-mart/administration/network/server/keep-alive

imSM のネットワークに関する設定です。

4.1.1.6.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/administration/network/server/keep-alive</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<administration>
<network>
<server keep-alive=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">180</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.1.6.2 説明

imSM とのネットワーク通信におけるコネクション維持時間です。

この設定値は、ネットワークコネクションを維持する時間で、設定時間が経過してもリクエストが無かった場合、コネクションの有効性を自動チェックします。この時点でネットワークが何らかの障害により切断されていた場合、コネクションの破棄と対象のサーバのシステムからの切り離しを行います。

4.1.1.6.3 注意

この設定値を小さくすると、ネットワーク障害に対して敏感にフォールトトレランス機能が働くようになりますが、その分ネットワークチェックのが頻繁に行われるようになりサーバのパフォーマンスに影響がでることがあります。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1.7 intra-mart/platform/host/address

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.7.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/host/address</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<host address=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ネットワークアドレス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">インストール時に設定したネットワークアドレス</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.1.7.2 説明

imSP の動作しているコンピュータのアドレスを指定してください。各 imSP は、この設定値を利用して相互に接続を試みます。

4.1.1.7.3 注意

この設定値が間違っていると、システムが起動しなかったり、別なシステムに接続してしまって、意図したシステムを構築できなくなる可能性があります。なお、この設定値は、TCP/IP で解決できるアドレスを指定してください（IP アドレスでもホストアドレスでもどちらでも接続することができます）。

4.1.1.8 intra-mart/platform/host/id

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.8.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">Intra-mart/platform/host/id</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
  <host id=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">◎</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">プラットフォームID</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">インストール時に設定した以下の値
APP:<ネットワークアドレス>:<ポート番号></td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.1.8.2 説明

システム内において、この imSP を一意に特定するための識別子です。なお intra-mart WebPlatform では、この値を用いて AppRSrv が http サービスを起動します。必ず conf/http.xml の<srun>タグまたは<http>タグの id 属性値と同じ値を指定するようにしてください（インストール直後は、同じ値になっています）。

4.1.1.8.3 注意

このサーバに対する識別子であるため、システム内の他のサーバと異なる値を設定してください。他のサーバと設定値が同じ場合、システムが正しく運用できません。

また intra-mart WebPlatform をご利用の場合、AppRSrv において、conf/http.xml の cluster/srun/id と同一の設定値にしていない場合、http セッションのフェールオーバ機能が正しく働かないことがあります。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1.9 intra-mart/platform/network/port

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.9.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/port</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network port=""></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">インストール時に設定したポート番号</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.1.9.2 説明

imSP がサービスを提供するポート番号です。

4.1.1.9.3 注意

コンピュータ内で使用されていないポート番号を設定してください。他のソフトウェアが試用しているポート番号を設定した場合、サーバが正しく起動できません。

なお、AppFramework での StandAlone または AppRSrv の場合は設定の必要がありますが、この項目の値は動作にはまったく関係ありません。

4.1.1.10 intra-mart/platform/network/timeout

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.10.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/timeout</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
  <network timeout=""></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">20</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.1.10.2 説明

imSP 同士のネットワーク通信におけるリクエストタイムアウト設定です。imSP に対する通信において、接続先のサーバ(imSP)からのリクエストに対する応答を待つ時間で、この設定値よりも応答が遅い場合はタイムアウトが発生してしまいます。タイムアウト後は、すでに障害が発生していると判断した場合は再接続をして再リクエストします。サーバでの処理中におけるタイムアウト発生時は、エラーとしてアプリケーションに通知します。

4.1.1.10.3 注意

ネットワークの物理的遮断などで正常に通信できない場合、ネットワークの異常をタイムアウトにより検知することになります。この設定項目の値が、その指標となります。つまり、この設定項目はタイムアウトの設定であると同時に、ネットワーク障害を検知してシステムを正常に自動復旧するまでの時間でもあります。

特に運用環境に置いては、この設定値を小さくするとアプリケーションエラーが発生する可能性を大きくしてしまいます。逆に大きくすると、ネットワーク障害発生時にシステムを自動復旧するまでの時間が長くなり、利用者からはサイトが無応答状態になったように感じられてしまいます。

したがって、サーバの性能とアプリケーションの処理の重さを加味した上で、適切な値を設定してください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1.11 intra-mart/platform/network/server/backlog

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.11.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/server/backlog</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network>
<server backlog=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">個</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-255</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">8</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.1.11.2 説明

imSP がサービスを提供するサーバポートの待ち受け要求数です。

4.1.1.11.3 注意

この設定は、サーバ内で処理待ちとなるネットワーク要求の待ち行列に関する設定です。サーバが処理中で設定されている待ち行列も飽和している場合、サーバが多量の要求を受け付けたときにビジー状態となります。

4.1.1.12 intra-mart/platform/network/server/threads

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.12.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/server/threads</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network>
<server threads=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">個</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-255</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">32</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.1.12.2 説明

imSP が同時に処理することの出来るネットワーク要求数です。つまり、このサーバが他のサーバから受け付けたリクエストを並列で処理できる最大個数ということになります。

特に AppRSrv の場合は、ブラウザまたは WSC から受け付けたスクリプト開発モデルに対するリクエストを並列で処理できる最大個数となります。したがって、この値を小さくすることで AppRSrv の負荷を軽減することができます。

なお、AppRSrv の場合は同時実行数を超えるリクエストの待ち行列の許容量が別途定義できるようになっています（設定項目 intra-mart/platform/service/application/http/accept/queue を参照）。待ち行列も超えるほどの量のリクエストを受けた場合、許容外のリクエストについては受付エラー（標準ではステータスコード 503 のビジー画面）が返されます。

4.1.1.12.3 注意

この指定値よりも多くのリクエストを同時に受け付けた場合、指定個数分のリクエストに関しては処理を実行しますが、その他のリクエストに関しては処理中となっているリクエストの処理終了待ちとなります。したがって、この設定値が小さい場合、短時間に多くのリクエストを受け付けた場合、処理待ちが発生しサーバレスポンスのボトルネックとなる可能性があります。

逆にこの設定を大きな値にした場合、多くのプログラムが同時実行されますので、（メモリなどの）サーバリソースを多量に消費する可能性があります。これによりリソース不足に伴うエラーが発生する可能性がありますので、サーバの処理能力を上回る設定は避けた方が好ましいです。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1.13 intra-mart/platform/network/server/keep-alive

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.13.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/server/keep-alive</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network>
<server keep-alive=""></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">900</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.1.13.2 説明

imSP がリクエストを受け付けるためのネットワークコネクションを維持する時間です。

そのコネクションからリクエストを受け付けない（そのコネクションが利用されない）という状態が、設定時間を経過しても続いた場合は、自動的にそのネットワークコネクションを切断してしまいます。

この機能はネットワークリソースを有効に活用するために不要なコネクションを破棄する目的と、ネットワーク障害時に無効なコネクションがリソースを開放しないまま残ってしまう危険性を回避するためのものです。あまり長すぎない程度に適切に設定してください。

4.1.1.13.3 注意

この設定値を小さくしすぎると、ネットワークコネクションが頻繁に破棄されてしまうことになります。これにより、サーバ間ネットワークの再接続が頻繁に行われるようになり、サーバのパフォーマンスを著しく低下させてしまう要因となってしまいます。

4.1.1.14 intra-mart/platform/network/client/connection

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.14.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/client/connection</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network>
<client connection=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">個</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-255</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">8</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.1.14.2 説明

imSP が他の imSP に対してネットワーク接続するときの最大コネクション数です。

4.1.1.14.3 注意

この値を絞ることのより、接続先のサーバに対して負荷を軽減させることができますが、接続待ちのスレッドが発生する確率が高くなります。逆に、この値を大きくすると、接続待ちによる処理の遅延が発生しにくくなりますが、接続先サーバの負荷およびネットワークの負荷が増大します。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1.15 intra-mart/platform/network/client/keep-alive

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.15.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/client/keep-alive</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network>
<client keep-alive=""></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">600</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.1.15.2 説明

imSP が他の imSP に対するネットワーク接続コネクションの維持時間です。

通常、ネットワークコネクションは一度確立されるとプールに保管されて長期にわたって複数のスレッドにより利用されます。しかし、コネクションを利用するスレッドが少なくなると同時に必要なコネクション数も少なくて済むため、多くのコネクションをプールに管理していても意味が無いことになります。

こうしたことから、コネクションプールは利用されない状態が一定時間以上続いたコネクションに関しては、自動的に破棄するように実装されています。この設定項目は、プールがコネクションを破棄するための利用のない時間の基準となります。

4.1.1.15.3 注意

この値を小さくすると不要なコネクションがすぐに破棄されるようになりますが、その後多くのコネクションが同時に必要となったときに再度ネットワーク接続をしなければならないためプールのオーバーヘッドが大きくなります。

また、サーバ側のコネクション維持時間 intra-mart/platform/network/server/keep-alive より長く設定してもサーバ側からコネクションが切断されてしまった場合、以後そのコネクションは利用できなくなってしまいますのであまり意味がありません。

したがって、この設定値はサーバ側のコネクション維持時間よりも短い範囲で小さすぎない値が好ましい設定値と言うことになります。

4.1.1.16 intra-mart/platform/network/client/filter

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.16.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/network/client/filter					
書式	<intra-mart> <platform> <network> <filter>					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	―			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	○	SerializeSrv	○
			SMSrv	○	StorageSrv	○
			PDSrv	○	ScheduleSrv	○
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	―		
			JavaEE 開発モデル	―		
単位			型			
設定値						
デフォルト値			編集	可		
適用環境	運用	○	重要度	○		
	開発	―				

4.1.1.16.2 説明

imSP が他の imSP に対してネットワーク接続するときの最大コネクション数に関するフィルタ設定です。

フィルタ設定は、<filter>タグの中に必要なフィルタリング設定を<connection>で定義します。<connection>タグは、フィルタ定義したい個数だけ併記することが可能です。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1.17 intra-mart/platform/network/client/filter/connection/address

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.17.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/client/filter/connection/address</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network>
<filter>
<connection address=""></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">IP アドレスまたはホスト名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">192.168.0.1(コメントアウト)</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.1.17.2 説明

imSP が他の imSP に対してネットワーク接続するときの最大コネクション数設定の対象となるサーバアドレスです。このアドレスに対する接続時は、intra-mart/platform/network/client/connection 設定ではなく、この<connection>タグの capacity 属性値が最大コネクション数として適用されます。

4.1.1.17.3 注意

ポート番号の設定 intra-mart/platform/network/client/filter/connection/port も同時に指定されている場合は、フィルタ定義を適用する imSP を一意に特定することができますが、ポート番号が未設定の場合はアドレスのみによる適合チェックとなりますので、フィルタ定義が複数の imSP に対して適用されてしまうことがあります。

4.1.1.18 intra-mart/platform/network/client/filter/connection/port

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.18.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/client/filter/connection/port</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network>
<filter>
<connection port=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">49150(コメントアウト)</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.1.18.2 説明

imSP が他の imSP に対してネットワーク接続するときの最大コネクション数設定の対象となるポート番号です。このポート番号に対する接続時は、intra-mart/platform/network/client/connection 設定ではなく、この<connection>タグの capacity 属性値が最大コネクション数として適用されます。

4.1.1.18.3 注意

アドレスの設定 intra-mart/platform/network/client/filter/connection/address も同時に指定されている場合は、フィルタ定義を適用する imSP を一意に特定することができますが、アドレスが未設定の場合はポート番号のみによる適合チェックとなりますので、フィルタ定義が複数の imSP に対して適用されてしまうことがあります。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.1.19 intra-mart/platform/network/client/filter/connection/capacity

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.19.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/client/filter/connection/capacity</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network>
<filter>
<connection capacity=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">個</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-255</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">2 (コメントアウト)</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.1.19.2 説明

imSP が他の imSP に対してネットワーク接続するときの最大コネクション数設定です。

このフィルタ定義を適用する接続先をアドレスまたはポート番号により指定してください（アドレスとポート番号を同時に指定して、この設定を適用する imSP を1つに限定することもできます）。

4.1.1.19.3 注意

この設定が適用された場合、通常の最大コネクション数設定は適用されません。

4.1.1.20 intra-mart/platform/network/inspection/status/keep-alive

imSP のネットワークに関する設定です。

4.1.1.20.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/network/inspection/status/keep-alive</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<network>
<inspection>
<status keep-alive=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">ミリ秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="5">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">3000</td><td>編集</td><td>不可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.1.20.2 説明

サーバの運用状況をモニタリングしている機能がステータス情報を保管する期間です。この値が大きい程より正確な運用状況のモニタリングが可能となりますが、その分メモリ消費量が増大することにつながります。

モニタリング情報は、im-Administrator を利用して確認することができます。

4.1.1.20.3 注意

この設定値が 1000 以下の場合、モニタリングの精度が極端に低下してしまいます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2 サービス部(Application Runtime)

4.1.2.1 intra-mart/platform/service/application/enable

AppRSrv に関する設定です。

4.1.2.1.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/application/enable					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <application enable="">					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	―		
			JavaEE 開発モデル	―		
単位				型	真偽値	
設定値	true|false					
デフォルト値	true			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	◎	
	開発	○				

4.1.2.1.2 説明

AppRSrv を実行するかどうかの設定です。

4.1.2.1.3 注意

この設定を含むすべてのサービスを有効(true)にした場合、StandAlone として実行されますが、その他のサービスのうち少なくとも1つ以上が無効(false)となっている場合、このサービスのみしか起動することができません。

4.1.2.2 intra-mart/platform/service/application/http/accept/queue

AppRSrv に関する設定です。

4.1.2.2.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/http/accept/queue</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<http>
<accept queue=""></td></tr>
<tr><td rowspan="12">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">個</td><td>型</td><td>正整数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">0-255</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">100</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.2.2.2 説明

HTTP リクエストのキューに関する設定です。

同時処理可能な最大要求数 intra-mart/platform/network/server/threads を超える要求を受け付けたときに、処理待ちをするキューの最大数です。

4.1.2.2.3 注意

この設定によりキューに一時保管可能な個数よりも多くの要求を受け付けた場合、HTTP レスポンスコード 503 が返されます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.3 intra-mart/platform/service/application/http/accept/query/length/max

AppRSrv に関する設定です。

4.1.2.3.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/http/accept/query/length/max</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<http>
<accept>
<query>
<length max=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">バイト</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-16777215</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">10485760</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.2.3.2 説明

この設定値よりもリクエストクエリの長さが小さな HTTP リクエストのみが処理されます。

この機能により、巨大なファイルのアップロードなどにより OutOfMemoryError が発生してサーバが不安定になるなどの障害からサーバを守ることが出来ます。

4.1.2.3.3 注意

リクエストクエリの長さがこの設定値よりも大きい場合は、HTTP レスポンスコード 413 が返されます。

4.1.2.4 intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/queue

AppRSrv に関する設定です。

4.1.2.4.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/queue</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<http>
<synchronized queue=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">個</td><td>型</td><td>正整数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">0-255</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">8</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.2.4.2 説明

HTTP リクエストのキューに関する設定です。

このキューは、サイズの大きなリクエストクエリに限定した処理待ちキューです。サイズの大きなリクエストは、リソース不足によるエラーからサーバを守るために並列処理されないという制限がかかります。サイズの大きなリクエストはリクエスト受付順に直列処理されますので、そのためのキュー設定となります。

4.1.2.4.3 注意

この設定によりキューに一時保管可能な個数よりも多くの要求を受け付けた場合、HTTP レスポンスコード 503 が返されます。なお、直列処理されるリクエストのサイズ制限は以下の設定で行うことが出来ます。

intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/query/length/min

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.5 intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/query/length/min

AppRSrv に関する設定です。

4.1.2.5.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">Intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/query/length/min</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<http>
<synchronized>
<query>
<length min=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">バイト</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-16777215</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">1048576</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.2.5.2 説明

この設定値よりもリクエストクエリの長さが小さな HTTP リクエストは並列処理されます。つまり、この設定値を基準として、リクエストクエリが小さい要求は並列処理されて、リクエストクエリが大きい場合は直列処理されます。

4.1.2.5.3 注意

並列処理される小さなリクエストと直列処理される大きなリクエストを合計して、サーバとして同時に並列処理可能なリクエスト数は、intra-mart/platform/network/server/threads の設定値となります。従って、設定値 intra-mart/platform/network/server/threads 以内であれば、大きなリクエストと小さなリクエストが同時に処理されます。大きなリクエストを受け付けた場合、小さなリクエストが大きなリクエストの処理終了待ちとなることはありません。

4.1.2.6 intra-mart/platform/service/application/http/controller/network/port

ServicePlatform に関する設定です。

4.1.2.6.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/application/http/controller/network/port					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <application> <http> <controller> <network> <port>					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル		○	
			JavaEE 開発モデル		○	
単位				型	整数	
設定値	ポート番号					
デフォルト値	4123			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	○	
	開発	―				

4.1.2.6.2 説明

ServicePlatform が、内部で通信するために使用するポートのポート番号を設定します。

ServicePlatform を起動するサーバ上で使われていないポート番号を指定してください。

未設定の場合は「4123」が指定されます。

※インストール直後は、この設定は記述されていません。

4.1.2.6.3 注意

この設定で指定されたポート番号でサーバポートを開きます。ServicePlatform 内の動作制御のみに使用されるので、他のサーバとの通信に使われることはありません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.7 intra-mart/platform/service/application/smtp-server/host

メール送信機能に関する設定です。

4.1.2.7.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/smtp-server/host</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<smtp-server host=""></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="2" colspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">IP アドレスまたはホスト名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">localhost</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.7.2 説明

メール送信 API がメールを送信する SMTP サーバを設定します。

4.1.2.8 intra-mart/platform/service/application/smtp-server/port

メール送信機能に関する設定です。

4.1.2.8.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/smtp-server/port</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<smtp-server port=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="3">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="3">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>整数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">0-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">25</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.8.2 説明

メール送信APIがメールを送信する際に使用するSMTPサーバのポート番号です。通常、SMTPサーバはポート番号25となっています。もしもSMTPサーバに対するメール送信が失敗する場合、環境に合わせて設定を変更してください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.9 intra-mart/platform/service/application/smtp-server/mailbox-check

メール送信機能に関する設定です。

4.1.2.9.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/application/smtp-server/mailbox-check					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <application> <smtp-server mailbox-check="">					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	○		
			JavaEE 開発モデル	○		
単位			型	真偽値		
設定値	true|false					
デフォルト値	false		編集	可		
適用環境	運用	○	重要度	○		
	開発	―				

4.1.2.9.2 説明

メールアドレスの形式をチェックする機能です。true の場合、以下のメソッドでメールアドレスの書式を RFC821 に準拠しているかチェックし、違反していればメソッドは false を返し失敗します。false の場合、メールアドレスのチェックを行いません。

スクリプト開発モデル	Mail#setBcc()
	Mail#setCC()
	Mail#setTo()
	Mail#setReplyTo()
	Mail#setFrom()
JavaEE 開発モデル	jp.co.intra_mart.foundation.smtp.Mail#setBcc()
	jp.co.intra_mart.foundation.smtp.Mail#setCc()
	jp.co.intra_mart.foundation.smtp.Mail#setFrom()
	jp.co.intra_mart.foundation.smtp.Mail#setReplyTo()
	jp.co.intra_mart.foundation.smtp.Mail#setTo()

4.1.2.10 intra-mart/platform/service/application/javascript-warning-trace

JavaScript 実行時の警告メッセージ表示に関する設定です。

4.1.2.10.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/javascript-warning-trace</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<javascript-warning-trace></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">false</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">－</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.10.2 説明

この設定を有効(true)にすることにより、ファンクションコンテナ(JavaScript)実行中における警告メッセージを出力することができます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.11 intra-mart/platform/service/application/session-auto-keep

アクセスセキュリティに関する設定です。

4.1.2.11.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/session-auto-keep</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<session-auto-keep></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">false</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.2.11.2 説明

通常は時間制限により自動的にタイムアウトしてしまうログインセッションを、自動的に維持するための機能です。
この機能は、ブラウザの機能を利用してセッションの自動維持を実現します。この設定を有効(true)にした場合、メニュー画面で JavaScript のタイマー機能（setTimeout 関数）を利用して、セッションが維持できる時間内にサーバにリクエストを自動送信します。リクエストの自動送信は定期的に繰り返し行われますので、ネットワークトラフィックの増大に繋がり、ネットワークのパフォーマンス低下（ボトルネック）となる可能性がありますので、ネットワーク環境とセッション有効時間の設定を考慮して機能の利用を検討して下さい。
なお、開発中はこの設定を有効(true)にすることにより、セッションタイムアウトの発生を防いでストレスのない開発環境を作ることができます。

4.1.2.11.3 注意

この設定は、アクセスセキュリティ機能を利用している場合に有効な機能です。アクセスセキュリティ機能を利用せずに構築しているアプリケーションでは、この機能を利用することができません。
ログインセッションを終了するには、メニュー画面の『Logout』ボタンをクリックするかブラウザを閉じて下さい。ブラウザを閉じた場合は、セッション有効時間の設定で指定された時間が経過した時点で、自動的にセッションが破棄されます。
なお、セッションタイムアウトの設定方法は、ご利用の Web アプリケーションサーバ製品により異なります。
Web アプリケーションサーバとして IWP（Resin）をご利用の場合は、
設定ファイル%AppRSrv%/conf/http.xml の
resin/server/web-app-default/session-config/session-timeout が設定項目となっています（詳細については設定ガイド＜HTTP 編＞をご覧下さい）。
AppFramework の場合は、ご利用中の Web アプリケーションサーバ製品で設定することになります。Web アプリケーションサーバ製品に付属のドキュメント等を利用して適切に設定してください。

4.1.2.12 intra-mart/platform/service/application/popup-window

アクセスセキュリティに関する設定です。

4.1.2.12.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/popup-window</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<popup-window></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.2.12.2 説明

メニューに登録された外部 URL（メニューマスタメンテナンス画面でメニュー登録時に『新規ページ(外部 URL)』を指定して登録したメニュー項目）をメニューから選択時に、該当するウェブページを表示する方法を指定します。この設定が有効(true)である場合、メニュー画面で外部 URL のメニュー項目クリック時に、ウェブサイトを別ウィンドウに表示します。逆に無効(false)の場合、ウェブサイトはメニューの右フレーム（intra-mart の通常の作業エリア）内に表示されます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.13 intra-mart/platform/service/application/tree-view

画面表示方法に関する設定です。

4.1.2.13.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/tree-view</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<tree-view></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.2.13.2 説明

組織検索画面等における組織情報表示方式を2つのパターンから切り替えることができます。

標準では、リンクによる表示になっており、特定の組織をクリックすることにより一度サーバに問い合わせて内包されている子組織を再表示します。この設定を有効（true）にすると、メニューと同様のツリー形式により組織構造が表示されるようになります。

4.1.2.13.3 注意

この機能は、過去の機能を互換するために用意されたものです。

この機能を利用して、メニューと同様のツリー形式による組織表示を行うと、その実装上の問題から組織の規模が大きくなるに従ってパフォーマンスが低下する可能性があります。

4.1.2.14 intra-mart/platform/service/application/database/data/old-date-type

データベース上のテーブルで Date 型のフィールドを、DbsConecction を用いて取得した場合にどの Java 型にマッピングするかを設定します。

4.1.2.14.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/database/data/old-date-type</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<database>
<data>
<old-date-type></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">－</td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true/false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">false</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.14.2 説明

データベース上のテーブルで Date 型のフィールドを、DbsConecction を用いて取得した場合
Ver.4.3 までは、java.sql.Date 型にマッピングされます。
Ver.5.0 以降では、java.util.Date 型マッピングされます。
このフラグを true に設定することで必ず java.sql.Date 型にマッピングされるようになります。
未設定の場合は「false」が設定されます。
※インストール直後は、この設定は記述されていません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.15 intra-mart/platform/service/application/database/data/timestamp-is-date

データベース上のテーブルで timestamp 型のフィールドを、Date 型オブジェクトとしてマッピングするための設定です。

4.1.2.15.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/database/data/timestamp-is-date</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<database>
<data>
<timestamp-is-date></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">－</td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true/false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">false</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.15.2 説明

この設定を true にすると、timestamp 型フィールドは Date 型オブジェクトとして扱われます。

具体的には timestamp 型のフィールドを持つテーブルに対して DatabaseManager オブジェクトを使用して DatabaseResult を取得した場合、上記のフィールド値は Date 型のデータとして取得されます。

また、DbParameter.TYPE_DATE を使用して Date 型のデータを、timestamp 型のフィールドに対してセットできるようになります。false（デフォルト値）の場合は、String 型として扱われます。

4.1.2.15.3 注意

ナノ秒のデータは保証されません。

また、Microsoft SQLServer シリーズの timestamp 型には対応しておりません。

4.1.2.16 ntra-mart/platform/service/application/database/sql-server2000

データベースに Microsoft SQL Server 2000 を利用する場合に設定します。

4.1.2.16.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/database/sql-server2000</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<database>
<sql-server2000></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">－</td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true/false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">false</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.16.2 説明

DatabaseManager（スクリプト開発モデル）の fetch メソッドで fetch のパフォーマンスを向上させるために、DB を判別して、SQL を発行しています。

Microsoft SQL Server を利用する場合、SQL 文で SQL Server 2005 以降で追加された関数を利用しています。SQL Server 2000 を利用する場合は、この設定を true にしてください。また、SQL 文に TOP 句を利用したい場合も同様に true に設定してください。

true に設定した場合、パフォーマンスは劣化しますが、SQL 文および Microsoft SQL Server のバージョンによる制限はなくなります。

未設定の場合は「false」が設定されます。

※インストール直後は、この設定は記述されていません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.17 intra-mart/platform/service/application/database/fast-fetch

DatabaseManager（スクリプト開発モデル）の fetch メソッドのパフォーマンスを向上させるオプションです。

4.1.2.17.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/application/database/fast-fetch					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <application> <database> <fast-fetch>					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	○		
			JavaEE 開発モデル	―		
単位	―			型	真偽値	
設定値	true/false					
デフォルト値	false			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	―	
	開発	○				

4.1.2.17.2 説明

DatabaseManager（スクリプト開発モデル）の fetch メソッドで、対象 DB を判別し、SQL 文を加工して対象行のみを取得することで、パフォーマンスが向上します。
また、DB より対象行のみを取得しますので、JDBC 内でのメモリーリークが解消されます。（Oracle, PostgreSQL）

設定による動作は以下の通りです。
有効(true)　DB に問い合わせる SQL 文を加工し、対象行のみを取得（新仕様）
無効(false)　DB に問い合わせる SQL 文を加工せず、DB カーソルをスキップして対象行を取得（旧仕様）

対象データベースに Microsoft SQL Server を利用する場合、SQL 文の加工で SQL Server 2005 以降で追加された関数を利用しています。
SQL Server 2000 を利用する場合は、この設定を false に設定する。
または、併せて「4.1.2.16 intra-mart/platform/service/application/database/sql-server2000」の設定を true にしてください。
未設定の場合は「false」が設定されます。
※インストール直後は、この設定は記述されていません。

4.1.2.17.3 注意

この設定を true に設定した場合、以下の制約が発生します。

- select カラムで別テーブルの同じカラム名をエイリアスを利用しないで同時に取得すると SQL エラーになります。
  （例）**select a.name,b.name from a,b where a.id = b.id**
  （Oracle, Microsoft SQL Server）

4.1.2.18 intra-mart/platform/service/application/database/prepared-modify

DatabaseManager（スクリプト開発モデル）の update および insert メソッドを用いた場合に内部での SQL 文の作成方式を変更するオプションです。

4.1.2.18.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/database/prepared-modify</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<database>
<prepared-modify></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">－</td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true/false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">false</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.18.2 説明

設定による動作は以下の通りです。

有効(true)　PreparedStatement を用いた SQL 文の作成方式（新仕様）を用います。

無効(false)　文字列連結による SQL 文の作成方式（旧仕様）を用います。

未設定の場合は「false」が設定されます。

※インストール直後は、この設定は記述されていません。

この設定を有効にすると、以下の点が改善されます。

- nvarchar 系に対する UTF-8 の文字での更新、挿入が可能になります。（Microsoft SQL Server）

4.1.2.18.3 注意

この設定を true に設定した場合、以下の点に注意してください。

- PreparedStatement を用いた SQL 文の作成方式（新仕様）を用いますが、update の set 句、および insert の values 句のみ対応しています。
  update の where 句については、互換性維持のため未対応となっています。
- PostgreSQL では、数値型カラムに文字列型で更新、挿入できない事象が確認されておりますので、このオプションの設定にかかわらず、必ず文字列連結による SQL 文の作成方式（旧仕様）を用います。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.19 intra-mart/platform/service/application/jssp/locale/handler-class

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.19.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/locale/handler-class</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<locale>
<handler-class></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">クラス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">jp.co.intra_mart.system.jssp.script.SecurityLocaleHandler</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.19.2 説明

スクリプト開発モデルのソースを検索する際に使用するロケールを決定するためのハンドラに関する設定です。

4.1.2.19.3 注意

標準では、アクセスセキュリティ機能を利用したロケール決定をするハンドラ実装が指定されています。アクセスセキュリティを使わない場合は、他のハンドラを利用するか、独自に実装したハンドラを設定する必要があります。

- jp.co.intra_mart.system.jssp.script.SecurityLocaleHandler
  アクセスセキュリティのアカウントに設定されているロケールを利用するハンドラ
- jp.co.intra_mart.system.jssp.script.DefaultLocaleHandler
  実行中の Java-VM の標準ロケール（java.util.Locale#getDefault()が返すロケール）を利用するハンドラ

4.1.2.20 intra-mart/platform/service/application/jssp/charset/handler-class

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.20.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/charset/handler-class</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<charset>
<handler-class></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">クラス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">jp.co.intra_mart.system.jssp.script.SecurityCharsetHandler</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.20.2 説明

スクリプト開発モデルが実行中に使用する文字エンコーディングを決定するためのハンドラ実装を設定します。

4.1.2.20.3 注意

標準では、アクセスセキュリティの機能を利用した文字エンコーディング決定をするハンドラ実装が指定されています。アクセスセキュリティを利用しない場合は、他のハンドラを利用するか、独自に実装したハンドラを設定する必要があります。

- jp.co.intra_mart.system.jssp.script.SecurityCharsetHandler
  アクセスセキュリティを利用した文字エンコーディング決定ロジックを持つハンドラ実装
- jp.co.intra_mart.system.jssp.script.DefaultCharsetHandler
  実行中の Java-VM の標準文字エンコーディング
  （java.lang.System.getProperty(“file.encoding”)が返す値）を返すハンドラ実装

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.21 intra-mart/platform/service/application/jssp/compile/output/script

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.21.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/compile/output/script</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<compile>
<output>
<script></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">work/jssp/_functioncontainer</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.21.2 説明

Function-Container（JavaScript）の Java クラスへのコンパイル機能を利用した場合に、生成される Java のクラスファイルを出力するディレクトリです。

4.1.2.21.3 注意

指定のディレクトリが存在しない場合、自動的にディレクトリを作成します。

指定のディレクトリに対して、ディレクトリ（サブディレクトリも含む）の作成やファイルの作成および参照が出来ない場合、実行時エラーとなりますので、ファイルシステムのアクセス権限に注意してください。

4.1.2.22 intra-mart/platform/service/application/jssp/compile/output/view

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.22.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/compile/output/view</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<compile>
<output>
<view></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">work/jssp/_presentationpage</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.22.2 説明

Presentation-Page（HTML）のコンパイル機能を利用した場合に、生成される中間ファイルを出力するディレクトリです。

4.1.2.22.3 注意

指定のディレクトリが存在しない場合、自動的にディレクトリを作成します。

指定のディレクトリに対して、ディレクトリ（サブディレクトリも含む）の作成やファイルの作成および参照が出来ない場合、実行時エラーとなりますので、ファイルシステムのアクセス権限に注意してください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.23 intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/general/directory

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.23.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/general/directory</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<source-path>
<general>
<directory></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">pages/src
pages/product/src
pages/platform/src</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.23.2 説明

スクリプト開発モデルのプログラム（HTML および JavaScript）の検索ディレクトリです。

複数個指定可能です。複数のディレクトリを指定した場合、記述されている順に検索されます。

4.1.2.23.3 注意

複数のディレクトリを指定している状態で、それぞれのディレクトリに同じファイル名で異なるソースを配置すると、先に検索したディレクトリ（設定ファイル内で上に定義されているディレクトリ）のソースが実行されます。他のソースは無視されます。

4.1.2.24 intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/international/local

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.24.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/international/local</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<source-path>
<international>
<local></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3"><ja>、<ja_JP></td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.24.2 説明

スクリプト開発モデルの国際化機能に関わる設定項目です。スクリプト開発モデルのプログラムを地域化（localization）する場合、地域化されたソースの保存ディレクトリパスをこの設定値に指定してください。なお、設定値はこのキーにロケールを表す記号を追加したものになります。

例：日本語ロケール（ja）に対応したソースを格納するディレクトリを c:/pages/ja とする場合
intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/international/local/ja つまり、以下のように設定します。

```
<intra-mart>
  <platform>
    <service>
      <application>
        <jssp>
          <source-path>
            <international>
              <local>
                <ja>c:/pages/ja</ja>
```


Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.25 intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/international/directory

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.25.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">Intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/international/directory</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<source-path>
<international>
<directory></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">pages/product/i18n
pages/platform/i18n</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.25.2 説明

スクリプト開発モデルの国際化機能に関連した設定項目です。地域化（localization）されたソースを保存するディレクトリを設定します。

スクリプト開発モデルのエンジンは、ここで設定されているディレクトリを親としてロケールを表す文字列をサブディレクトリとしたディレクトリパスとし、ソースを検索する基準ディレクトリとします。
例えば、この設定値が c:/pages/i18n で、現在のロケールが ja_JP の場合、スクリプト開発モデルのエンジンは c:/pages/i18n/ja_JP を親ディレクトリとしてソースを検索します。

4.1.2.26 intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general/classes

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.26.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">Intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general/classes</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<class-path>
<general>
<classes></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">pages/bin</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.26.2 説明

Function-Container（JavaScript）のコンパイラ js2class を利用して作成した Java のクラスのクラスパス設定です。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.27 intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general/archive

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.27.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general/archive</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<class-path>
<general>
<archive></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ファイルパス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">設定無</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.27.2 説明

Function-Container（JavaScript）のコンパイラ js2class を利用して作成した Java のクラスをまとめたアーカイブファイル（jar または zip）のクラスパス設定です。

4.1.2.28 intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general/libraries

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.28.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general/libraries</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<class-path>
<general>
<libraries></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">pages/bin/lib</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.28.2 説明

Function-Container（JavaScript）のコンパイラ js2class を利用して作成した Java のクラスをまとめたアーカイブファイル（jar または zip）が複数個ある場合、それらを1つのディレクトリに配置してそのディレクトリパスを設定することでシステムにすべてのアーカイブファイルをクラスパスとして認識させる事ができます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.29 intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/international

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.29.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/international</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<class-path>
<international></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3"><ja><ja_JP></td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.29.2 説明

地域化（localization）に対応したクラスファイルのクラスパス設定です。

<international>タグの子要素としてロケールを表す文字列をタグ名とする要素を追加して設定します。クラスパスは、intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general と同様に、classes,archive,libraries の3種類の指定方法が可能です。

4.1.2.30 intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/browse/enable

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.30.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/browse/enable</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<debug>
<browse enable=""></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.30.2 説明

スクリプト開発モデル API「Debug.browse()」の実行を制御する設定です。true が設定されている場合は Debug.browse()が実行され、false が設定されている場合は Debug.browse()は実行されません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.31 intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/print/enable

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.31.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/print/enable</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<debug>
<print enable=""></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.31.2 説明

スクリプト開発モデル API「Debug.print()」の実行を制御する設定です。true が設定されている場合は Debug.print()が実行され、false が設定されている場合は Debug.print()は実行されません。

4.1.2.32 intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/write/enable

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.32.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/write/enable</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<debug>
<write enable=""></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.32.2 説明

スクリプト開発モデル API「Debug.write()」の実行を制御する設定です。true が設定されている場合は Debug.write()が実行され、false が設定されている場合は Debug.write()は実行されません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.33 intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/console/enable

スクリプト開発モデルに関する設定です。

4.1.2.33.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/console/enable</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<debug>
<console enable=""></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.33.2 説明

スクリプト開発モデル API「Debug.console()」の実行を制御する設定です。true が設定されている場合は Debug.console()が実行され、false が設定されている場合は Debug.console()は実行されません。

4.1.2.34 intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/mode

SOAPClient オブジェクトに関する設定です。

4.1.2.34.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/mode</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<soap-client>
<mode></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">Everytime,Once,Never</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">Once(コメントアウト)</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.34.2 説明

SOAPClient のインスタンス生成時に行われる Web サービスのスタブ生成（＝WSDL の解析、Java スタブ・ソースの生成＆コンパイル、および、JavaScript ソースの生成）に関する設定です。以下の 3 つの設定が可能です。

・Everytime

Web サービスのスタブを毎回作成します。開発時に利用する設定です。

・Once

Web サービスのスタブが存在しない場合のみスタブを作成します。

・Never

Web サービスのスタブを自動生成しません。このモードの場合、別途、Web サービスのスタブを配備する必要があります。スタブの配置には、Axis2 が生成する Java のスタブ・クラスをクラスパスに追加し、SOAPClient オブジェクトで生成された JavaScript のスタブ・ソースをソースディレクトリに追加する必要があります。

サンプル「sample/web_service/client/member_info_operator_client.js」を使用し、soap-client/work-dir を変更してない場合に Web サービスのスタブを配備する方法の具体例を以下に示します。

サンプル「sample/web_service/client/member_info_operator_client.js」を実行すると、「Axis2 が生成した Java のスタブ・クラス」および、「SOAPClient オブジェクトが生成した JavaScript のスタブ・ソース」が下記のディレクトリに出力されます。

- Java のスタブ・クラス保存先 ：
  %IM_HOME%/work/jssp/_functioncontainer/ja_JP/sample/web_service/provider/配下の*.class ファイル
- JavaScript のスタブ・ソース保存先 ：
  %IM_HOME%/work/jssp/_functioncontainer/ja_JP/sample/web_service/provider/配下の*.js ファイル

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

■ このディレクトリは、iWP を再起動すると削除されますので、ご注意ください。

Axis2 が生成する Java のスタブ・クラスをクラスパスに追加するには、作成された Java のスタブ・クラスを下記にコピーしてください。

■ Java のスタブ・クラスコピー先 ：

%IM_HOME%/doc/imart/WEB-INF/classes/sample/web_service/provider/

SOAPClient オブジェクトで生成された JavaScript のスタブ・ソースをソースディレクトリ(通常は%IM_HOME%/pages/src/)に追加するには、作成された JS のスタブ・ソースを下記にコピーしてください。

■ JavaScript のスタブ・ソースコピー先 ：

%IM_HOME%/pages/src/sample/web_service/provider/

4.1.2.35 intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/work-dir

SOAPClient オブジェクトに関する設定です。

4.1.2.35.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/work-dir</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<soap-client>
<work-dir></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリ名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">work/jssp/_functioncontainer(コメントアウト)</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">－</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.35.2 説明

Web サービスのスタブ、および、WSDL ファイルを展開するディレクトリです。

Application Runtime がインストールされているディレクトリからの相対パスで指定します。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.36 intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/javac-encoding

SOAPClient オブジェクトに関する設定です。

4.1.2.36.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/javac-encoding</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<soap-client>
<javac-encoding></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">文字コード</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">UTF-8(コメントアウト)</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">－</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.2.36.2 説明

Web サービスのスタブをコンパイルする際の Java ソースの文字コードを設定します。

4.1.2.37 intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/javac-verbose

SOAPClient オブジェクトに関する設定です。

4.1.2.37.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/javac-verbose</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<soap-client>
<javac-verbose></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">false(コメントアウト)</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>－</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.37.2 説明

Web サービスのスタブをコンパイルする際の詳細情報出力可否設定です。true の場合、詳細情報が出力され、false の場合詳細情報は出力されません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.38 intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/javac-xmx

SOAPClient オブジェクトに関する設定です。

4.1.2.38.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/javac-xmx</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<application>
<jssp>
<soap-client>
<javac-xmx></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">最大ヒープサイズ</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">利用する JavaVM の-Xmx オプションの初期値</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.2.38.2 説明

Web サービスのスタブをコンパイルする際の最大ヒープサイズを設定します。

例えば、<javac-xmx>256m</javac-xmx>と設定した場合、最大ヒープサイズは 256M バイトに設定されます。

※インストール直後は、この設定は記述されていません。

4.1.2.39 intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/wsdl/storage/import-location/suffixes/suffix

SOAPClient オブジェクトに関する設定です。

4.1.2.39.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/ wsdl/storage/import-location/suffixes/suffix					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <application> <jssp> <soap-client> <wsdl> <storage> <import-location> <suffixes> <suffix>					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	○		
			JavaEE 開発モデル	―		
単位				型	文字列	
設定値	設定する拡張子					
デフォルト値	.xsd,.wsdl			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	―	
	開発	○				

4.1.2.39.2 説明

スタブ生成に必要なファイルの拡張子を設定します。Storage Service 上に保存されている WSDL ファイルを利用する際に必要な設定です。

例えば、ある WSDL ファイルで参照している要素が、別のファイルで定義されている場合、その定義ファイルの拡張子をここに設定します。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.2.40 intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/wsdl/storage/import-location/sub-dirs/sub-dir

SOAPClient オブジェクトに関する設定です。

4.1.2.40.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/ wsdl/storage/import-location/sub-dirs/sub-dir					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <application> <jssp> <soap-client> <wsdl> <storage> <import-location> <sub-dirs> <sub-dir>					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	○		
			JavaEE 開発モデル	―		
単位				型	文字列	
設定値	設定するディレクトリ名					
デフォルト値	xsd			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	―	
	開発	○				

4.1.2.40.2 説明

スタブ生成に必要なファイルが格納されているディレクトリ名の設定です。Storage Service 上に保存されている WSDL ファイルを利用する際に必要な設定です。

例えば、ある WSDL ファイルで参照している要素が、別のファイルで定義されている場合、そのファイルが保存されているディレクトリ名をここに設定します。WSDL ファイルが保存されているディレクトリのサブディレクトリ名として利用されます。

4.1.3 サービス部(Storage Service)

4.1.3.1 intra-mart/platform/service/storage/enable

StorageSrv に関する設定です。

4.1.3.1.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/storage/enable					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <storage enable="">					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	―		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	○
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル		―	
			JavaEE 開発モデル		―	
単位				型	真偽値	
設定値	true|false					
デフォルト値	true			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	◎	
	開発	○				

4.1.3.1.2 説明

StorageSrv を実行するかどうかの設定です。

4.1.3.1.3 注意

StandAlone 型でのサーバ運用を行う場合は、必ず true にしてください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.3.2 intra-mart/platform/service/storage/file-root

コンテンツ管理機能に関する設定です。

4.1.3.2.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/storage/file-root/path</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<storage file-root="”></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">storage</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.3.2.2 説明

StorageSrv で管理するコンテンツの保存ディレクトリの設定です。

StorageSrv に対して保存要求をしたファイルは、このディレクトリを親ディレクトリとして解決したパスに保存されます。また、StorageSrv に対して取得要求をしたファイルパスは、このディレクトリを親ディレクトリとして解決したパスからファイルを読み込みます。

相対パスで指定されている場合、サーバをインストールしたディレクトリを親としてパスが解決されます。

4.1.3.2.3 注意

この設定を変更すると、サーバが動作しなくなる可能性があります。

4.1.4 サービス部(Shared-memory Service)

4.1.4.1 intra-mart/platform/service/external/enable

SMSrv に関する設定です。

4.1.4.1.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/external/enable					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <external enable="">					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	―		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	○	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル		―	
			JavaEE 開発モデル		―	
単位				型	真偽値	
設定値	true|false					
デフォルト値	true			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	◎	
	開発	○				

4.1.4.1.2 説明

SMSrv を実行するかどうかの設定です。

4.1.4.1.3 注意

StandAlone 型でのサーバ運用を行う場合は、必ず true にしてください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.5 サービス部(Permanent-data Service)

4.1.5.1 intra-mart/platform/service/permanent/enable

PDSrv に関する設定です。

4.1.5.1.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/permanent/enable</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<permanent enable=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.5.1.2 説明

PDSrv を実行するかどうかの設定です。

4.1.5.1.3 注意

StandAlone 型でのサーバ運用を行う場合は、必ず true にしてください。

4.1.5.2 intra-mart/platform/service/permanent/treasure-root

PDSrv に関する設定です。

4.1.5.2.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/permanent/treasure-root</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<permanent treasure-root="”></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">treasure</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.5.2.2 説明

永続データの保存ディレクトリを指定します。API を利用して保存した永続データは、このディレクトリ内でファイル保存されます。

相対パスで指定されている場合、サーバをインストールしたディレクトリを親としてパスが解決されます。

4.1.5.2.3 注意

この設定を変更すると、サーバが動作しなくなる可能性があります。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.5.3 intra-mart/platform/service/permanent/data-pool/delay-time

データ管理機能（永続データ）に関する設定です。

4.1.5.3.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/permanent/data-pool/delay-time</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<permanent>
<data-pool delay-time=""></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">ミリ秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">1000</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.5.3.2 説明

永続データの保存要求からデータのファイル出力までの遅延時間の設定です。

永続データ管理機能はファイルによりデータを管理しています。データの保存時はファイル I/O を利用しますが、この入出力を効率的に行うための設定が、この遅延時間設定になります。この遅延時間内に保存要求されたデータはまとめてファイル出力されますので、遅延時間を長くすることにより効率的なデータ保存を実現しサーバパフォーマンスの向上を期待することができます。

4.1.5.3.3 注意

保存要求されたデータは、この遅延時間が経過するまでメモリ内で管理されます。ファイルに出力されず、メモリ管理中にサーバが停止してしまった場合、保存データはコミットされず、再起動後にデータを取り出すことができなくなります。遅延時間が長いほど、こういった現象を誘発する危険性が高くなりますので、適切な値を設定するようにして下さい。

4.1.5.4 intra-mart/platform/service/permanent/data-pool/size

データ管理機能（永続データ）に関する設定です。

4.1.5.4.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/permanent/data-pool/size</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<permanent>
<data-pool size=""></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>ImSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ImSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">個</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-255</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">8</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">◎</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.5.4.2 説明

永続データのメモリキャッシュ機能に関する設定です。

この設定数分だけ、永続データをメモリキャッシュして永続データ入出力に関するパフォーマンスアップを実現します。したがって、この設定値が大きいほど永続データ入出力のレスポンスは速くなりますが、設定値に比例してメモリを消費してしまいます。

キャッシュの個数とは、永続データが保存されているファイル数になります。したがって設定値が 10 の場合、treasure ディレクトリ内のファイルが最大 10 個メモリキャッシュされることになります。

4.1.5.4.3 注意

大きな値を設定した場合、メモリのクリーンアップとメモリ消費のバランスにより逆にパフォーマンス低下の原因となる場合があります。サーバの能力および使用状況に合わせて設定するようにして下さい。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.5.5 intra-mart/platform/service/permanent/history/enable

PDSrv に関する設定です。

4.1.5.5.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/permanent/history/enable</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<permanent>
<history enable=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>ImSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ImSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.5.5.2 説明

PDSrv が管理するデータの定期バックアップ機能を利用するかどうかの設定です。

4.1.5.5.3 注意

この設定を有効にすると、treasure ディレクトリ(標準)内に保存されたデータを指定のタイミングで自動バックアップします。バックアップされたデータは、treasure ディレクトリ内の history ディレクトリに ZIP 形式のアーカイブ（圧縮）ファイルとして保存されます。アーカイブファイルのファイル名は、バックアップ日時を元にして自動的に決定されます。

また、データのバックアップ中は PDSrv の処理が一時的に中断してしまいます。バックアップするデータ量に比例してサービス停止時間が長くなります。PDSrv のサービス提供中止は、PDSrv を利用するすべての処理の一時的な停止となりますので、システム全体が一時的に停止してしまったように感じる場合があります。したがって、この機能を利用する場合は、これらの事柄に十分注意をしてください。

4.1.5.6 intra-mart/platform/service/permanent/history/time

PDSrv に関する設定です。

4.1.5.6.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/permanent/history/time</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<permanent>
<history>
<time></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>ImSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ImSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-16777215</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">86400</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.5.6.2 説明

PDSrv が管理するデータの定期バックアップ機能が働く時間間隔の設定です。

4.1.5.6.3 注意

定期バックアップを行う時間間隔の設定ですが、あまり短い時間を指定するとシステム全体のパフォーマンスに影響する可能性がありますので、設定値には十分に注意してください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.5.7 intra-mart/platform/service/permanent/history/time/enable

PDSrv に関する設定です。

4.1.5.7.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/permanent/history/time/enable</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<permanent>
<history>
<time enable=""></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>ImSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ImSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.5.7.2 説明

PDSrv が管理するデータの定期バックアップ機能が働く時間間隔の設定です。この設定を有効にすると、指定の時間間隔で定期バックアップが行われます。

4.1.5.7.3 注意

この設定は intra-mart/platform/service/permanent/history/everyday 設定と併用することが可能ですが、両方の設定を同時に有効とした場合、この時間間隔の設定は、条件によりバックアップのタイミングが異なりますので、注意が必要です。

起動してから毎日の定時バックアップ前	起動してから起算して設定の時間間隔でバックアップを行います。
毎日の定時バックアップ処理後	毎日の定時バックアップ処理後から起算して設定の時間間隔でバックアップ処理を行います。

つまり、この機能は『前回バックアップ処理をしてから設定時間が経過』した場合にバックアップを行います。

4.1.5.8 intra-mart/platform/service/permanent/history/everyday

PDSrv に関する設定です。

4.1.5.8.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/permanent/history/everyday</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<permanent>
<history>
<everyday</td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>時間フォーマット(時分)</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">hh:mm</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">00:00</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.5.8.2 説明

PDSrv が管理するデータの定期バックアップ機能が働く時間の設定です。

設定値は、指定の時間フォーマットに従って記述してください。時間フォーマットは、以下の形式です。

hh:mm

なお、hh は24時間表現の 0 から 23 の範囲の自然数を指定してください。mm は、0 から 59 までの自然数で分を指定してください。時間フォーマットに従わない記述は、設定エラーとなります。

4.1.5.8.3 注意

定期バックアップを行う時間の設定ですが、定期バックアップ機能の性質を十分に理解した上で設定してください。アクセスの頻繁な時間帯の設定はシステム全体のパフォーマンスに影響しますので、あまりお勧めできません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.5.9 intra-mart/platform/service/permanent/history/everyday/enable

PDSrv に関する設定です。

4.1.5.9.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">Intra-mart/platform/service/permanent/history/everyday/enable</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<permanent>
<history>
<everyday enable=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.5.9.2 説明

PDSrv が管理するデータの定期バックアップ機能が働く時間の設定です。この設定を有効にすると、毎日指定の時間に定期バックアップが行われます。

4.1.5.9.3 注意

バックアップを毎日決まった時間に行いたい場合は、この設定を有効にしてください。

intra-mart/platform/service/permanent/history/time/enable 設定と同時に有効にすることができますが、バックアップ動作のタイミングを十分に考慮した上で設定するようにしてください。

4.1.6 サービス部(Schedule Service)

4.1.6.1 intra-mart/platform/service/scheduler/enable

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.1.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/scheduler/enable					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <scheduler enable="">					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	―		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	○
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル		―	
			JavaEE 開発モデル		―	
単位				型	真偽値	
設定値	true|false					
デフォルト値	true			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	◎	
	開発	○				

4.1.6.1.2 説明

ScheduleSrv を実行するかどうかの設定です。

4.1.6.1.3 注意

StandAlone 型でのサーバ運用を行う場合は、必ず true にしてください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.6.2 intra-mart/platform/service/scheduler/connection-url

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.2.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/scheduler/connection-url</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<scheduler>
<connection-url></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">URL</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">http://<ネットワークアドレス>:<ポート番号>
/imart/HTTPActionEventListener</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.6.2.2 説明

ScheduleSrv が設定時間にプログラムを実行させるために利用する AppRSrv が動作している URL です。

4.1.6.2.3 注意

ScheduleSrv が動作しているコンピュータから AppRSrv が動作しているコンピュータに対して接続できる URL を指定してください。AppRSrv が http サーバとして動作していない(WSC を利用している)場合は、AppRSrv にアクセスできる Web サーバへの URL を指定してください。

なお、AppRSrv のバッチプログラム実行用 Servlet の設定を特に変更していない場合、URL のサーブレット名は HTTPActionEventListener となります。

4.1.6.2.3.1 Web サーバが HTTPS プロトコルを使用している場合の ScheduleSrv 設定方法

Web サーバが HTTPS プロトコルを使用している場合、サーバ証明書の設定が必要です。

具体的には、以下の4つを行います。

1. URL の変更
2. サーバ証明書の取得
3. サーバ証明書をキーストアに追加
4. システムプロパティ「javax.net.ssl.trustStore」の設定

（これらの設定していない場合、ScheduleSrv 側で「javax.net.ssl.SSLHandshakeException」がスローされます）

4.1.6.2.3.1.1 URL の変更

「intra-mart/platform/service/scheduler/connection-url」に設定されている URL のプロトコルを「http」から「https」に変更します。(例 「https://hostname/imart/HTTPActionEventListener」)

4.1.6.2.3.1.2 サーバ証明書の取得

次に、サーバ証明書を取得します。サーバ証明書の取得方法はいくつかありますが、
ここでは、Widnows 環境の FireFox3 を利用して証明書を取得する方法を示します。
(サーバ証明書の詳細は、サーバ管理者にお問い合わせください)

1. HTTPS プロトコルで稼動している Web サーバにアクセスし、FireFox にサーバ証明書を追加します。
(アクセスする URL の例 ⇒ https://hostname/)
自己署名証明書など発行者が不明な証明書の場合は「安全な接続が出来ませんでした」とセキュリティの警告が表示されます。その際は、ブラウザに表示される注意をよく読み、セキュリティ例外を承認してください。
2. メニューより、[ツール] - [オプション]を選択します。
3. [詳細]ペインの[暗号化]タブを表示します。
4. [証明書を表示]ボタンを押下し、[証明書マネージャ]ウィンドウを表示します。
5. [サーバ証明書]タブを表示し、取得したいサーバ証明書を選択します。
6. [表示]ボタンをクリックし、取得したい証明書であることを確認します。
7. 取得したい証明書であることを確認後、[エクスポート]ボタンを押下し、証明書を保存します。
(ここでは、証明書を「C:¥temp¥server.crt」として保存します。)

4.1.6.2.3.1.3 サーバ証明書をキーストアに追加

サーバ証明書を ScheduleSrv が稼動するマシンのキーストアに追加します。追加には JDK 付属のツール keytool の -import コマンドを使います。例えば、サーバ証明書「C:¥temp¥server.crt」を、別名「sample_alias」でキーストアエントリに格納するには、以下のコマンドを実行します。

```
>keytool -import -alias sample_alias -file C:¥temp¥server.crt
```

上記コマンドを実行すると、ユーザのホームディレクトリの「.keystore」ファイルに、キーストアが作成されます。
(keytool の詳細は、JDK ドキュメントに含まれる keytool - 鍵と証明書の管理ツール を参照してください)

4.1.6.2.3.1.4 システムプロパティ「javax.net.ssl.trustStore」の設定

ScheduleSrv の imart.xml を編集します。imart.xml の「intra-mart/platform/java/server/command/option」にシステムプロパティ「javax.net.ssl.trustStore」を追加します。

具体的には、以下を追加します。(Windows の場合の例です。「user_name」は適宜変更してください)

```
-Djavax.net.ssl.trustStore="C:¥Documents and Settings¥user_name¥.keystore"
```


Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.6.3 intra-mart/platform/service/scheduler/load-time

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.3.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/scheduler/load-time</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<scheduler>
<load-time></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列
（時間フォーマット）</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">HH:MM:SS</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">00:00:00</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.6.3.2 説明

バッチ起動情報の再構築時間の設定です。

ScheduleSrv のスケジューラ機能は、バッチ設定情報を読み込んでそこから構築されたバッチ起動情報に基づいてバッチプログラムの実行をおこないます。ScheduleSrv は、設定時刻にバッチ起動情報を再構築しますので、それまでに変更されたバッチ起動情報は、この設定時刻に自動的に反映されます。

時刻は、24 時間表記で指定して下さい。

4.1.6.3.3 注意

この設定時刻前に、バッチ起動情報の変更を ScheduleSrv の動作に反映させるためには、ScheduleSrv を再起動しなければなりません。

4.1.6.4 intra-mart/platform/service/scheduler/check-time

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.4.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/scheduler/check-time</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<scheduler>
<check-time></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">10</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.6.4.2 説明

スケジューラの時刻チェック間隔の設定です。

スケジューラは、この設定時間間隔で現在時刻をチェックして、実行すべき（設定時間を経過した）バッチプログラムがある場合には、該当するバッチプログラムを実行します。

4.1.6.4.3 注意

この設定値を短くすると、設定時刻に近い時刻でのバッチプログラムの実行が可能ですが、チェックによるサーバ負荷が高くなります。

逆にこの設定値を長くすると、サーバ負荷を軽減することができますが、バッチプログラムの実行時刻が設定時刻よりも遅くなってしまう場合があります。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.6.5 intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/class-name

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.5.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/class-name</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<scheduler>
<component>
<configuration-handler>
<class-name></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">クラス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">jp.co.intra_mart.system.batch.impl.BatchEvent
ConfigHandlerImpl</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.6.5.2 説明

バッチの設定情報を ScheduleSrv に提供するハンドラです。

標準のハンドラは、AppRSrv に接続して設定情報を取得し、返します。

jp.co.intra_mart.system.batch.impl.BatchEventConfigHandlerImpl

標準のハンドラ実装です。parameter/local/enable を true に設定すると、ローカル環境で情報を取得します。これは、Web コンテナで動作しているとき専用の機能です。逆に false を設定すると、http プロトコルによりネットワーク経由でデータを取得します。この設定は、Web コンテナで動作している場合初期化エラーの原因になります。

jp.co.intra_mart.system.batch.impl.BatchEventConfigHandlerImpl4alone

スタンドアロン環境限定の標準ハンドラ実装です。高速ですが、分散環境では利用できません。

4.1.6.6 intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/parameter/local/enable

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.6.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/parameter/local/enable					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <scheduler> <component> <configuration-handler> <parameter> <local enable="" />					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	―		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	○
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	―		
			JavaEE 開発モデル	―		
単位				型	真偽値	
設定値	true|false					
デフォルト値	true			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	○	
	開発	○				

4.1.6.6.2 説明

ハンドラ実装 jp.co.intra_mart.system.batch.impl.BatchEventConfigHandlerImpl 専用の設定項目です。スタンドアロンで動作している場合は、true を設定してください。逆に分散環境を構築している場合は、false を設定してください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.6.7 intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/parameter/retry/count

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.7.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/parameter/retry/count</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<scheduler>
<component>
<configuration-handler>
<parameter>
<retry count="" /></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JAVAEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">回</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">10</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.6.7.2 説明

バッチ設定情報の取得に失敗した場合のリトライ回数です。

この設定項目は、ハンドラ実装 jp.co.intra_mart.system.batch.impl.

BatchEventConfigHandlerImpl 専用、かつ、分散環境を構築している場合にのみ有効な設定項目です。

未設定の場合は「10」が設定されます。

※インストール直後は、この設定は記述されていません。

4.1.6.8 intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/parameter/retry/wait-time

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.8.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/parameter/retry/wait-time</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<scheduler>
<component>
<configuration-handler>
<parameter>
<retry wait-time="" /></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JAVAEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">ミリ秒</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">6000</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>－</td></tr>
</table>

4.1.6.8.2 説明

バッチ設定情報に失敗した場合のリトライ時の待ち時間です。

この設定項目は、ハンドラ実装 jp.co.intra_mart.system.batch.impl.

BatchEventConfigHandlerImpl 専用、かつ、分散環境を構築している場合にのみ有効な設定項目です。

未設定の場合は「6000」が設定されます。

※インストール直後は、この設定は記述されていません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.6.9 intra-mart/platform/service/scheduler/component/event-listener/class-name

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.9.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/scheduler/component/event-listener/class-name</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<scheduler>
<component>
<event-listener>
<class-name></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">クラス名</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">jp.co.intra_mart.system.batch.impl.BatchEvent
ListenerImplWithAccountSecuritySession</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.6.9.2 説明

バッチプログラム実行イベントを処理するイベントリスナです。バッチの設定に合わせてバッチ実行イベントが発生します。このリスナは、そのイベントを処理（つまり指定されたバッチプログラムを実行）するものになります。

- jp.co.intra_mart.system.batch.impl.BatchEventListenerImplWithAccountSecuritySession
  標準のイベントリスナです。アクセスセキュリティの指定のログインセッションを持った環境でバッチプログラムが実行されます。ログイン環境のログイングループは、そのバッチ設定を設定しているログイングループとなります。
- jp.co.intra_mart.system.batch.impl.BatchEventListenerImplWithAuthorizedAccountSecuritySession
  アクセスセキュリティの指定のログインセッションを持った環境でバッチプログラムが実行されます。ログイン環境のログイングループは、そのバッチ設定を設定しているログイングループとなります。このリスナを使用すると、指定のアカウントで認証をするので、実在のアカウントIDを指定しないとセキュリティエラーになりバッチプログラムは実行されません。
- jp.co.intra_mart.system.batch.impl.BatchEventListenerImplWithGroupSecuritySession
  アクセスセキュリティの指定のログインセッションを持った環境でバッチプログラムが実行されます。ログイン環境のログイングループは、そのバッチ設定を設定しているログイングループとなります。このリスナでは、アカウントという概念がありません。
- jp.co.intra_mart.system.batch.impl.BatchEventListenerImpl
  最もシンプルなリスナです。アクセスセキュリティ機能を使わないため、バッチプログラム中でアクセスセキュリティに関連するAPIを実行した場合、正しい値を返さなかったり、エラーになったりします。

4.1.6.10 intra-mart/platform/service/scheduler/component/event-listener/parameter/security/account

ScheduleSrv に関する設定です。

4.1.6.10.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/scheduler/component/event-listener/parameter/security/account</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<scheduler>
<component>
<event-listener>
<parameter>
<security account="" /></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">アカウントID</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">batch-controller</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.6.10.2 説明

アクセスセキュリティのログインセッション環境を構築してバッチプログラムを実行するリスナ専用の設定です。

ログインセッション環境を構築するリスナは、ここで指定されたアカウントIDを用いてセッションを作ります。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.7 サービス部(Resource Service)

4.1.7.1 intra-mart/platform/service/resource/enable

RSrv に関する設定です。

4.1.7.1.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/resource/enable</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<resource enable=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>真偽値</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">true|false</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">true</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.7.1.2 説明

RSrv を実行するかどうかの設定です。

4.1.7.1.3 注意

StandAlone 型でのサーバ運用を行う場合は、必ず true にしてください。

4.1.7.2 intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/general/directory

RSrv に関する設定です。

4.1.7.2.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/general/directory					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <resource> <jssp> <source-path> <general> <directory>					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	―		
			RSrv	○	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル		○	
			JavaEE 開発モデル		―	
単位				型	文字列	
設定値	ディレクトリパス					
デフォルト値	pages/src pages/product/src pages/platform/src			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	◎	
	開発	○				

4.1.7.2.2 説明

スクリプト開発モデルのソースを検索する親ディレクトリを設定します。

相対パス指定した場合、インストールディレクトリを親ディレクトリとして自動解決します。絶対パス指定も可能なので、確実にディレクトリ指定したい場合や、インストールディレクトリとは関係ないパスを指定したい場合には、絶対パスで設定してください。

この設定は、複数記述することができます。その場合、記述順（上から順番）にソースが検索されます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.7.3 intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/international/local

RSrv に関する設定です。

4.1.7.3.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/international/local</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<resource>
<jssp>
<source-path>
<international>
<local></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ディレクトリパス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">ja、ja_JP</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.7.3.2 説明

スクリプト開発モデルの国際化機能に関わる設定項目です。スクリプト開発モデルのプログラムを地域化（localization）する場合、地域化されたソースの保存ディレクトリパスをこの設定値に指定してください。なお、設定値はこのキーにロケールを表す記号を追加したものになります。

例：日本語ロケール（ja）に対応したソースを格納するディレクトリを c:/pages/ja とする場合
intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/international/local/ja つまり、以下のように設定します。

```
<intra-mart>
  <platform>
    <service>
      <resource>
        <jssp>
          <source-path>
            <international>
              <local>
                <ja>c:/pages/ja</ja>
```

4.1.7.4 intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/international/directory

RSrv に関する設定です。

4.1.7.4.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/international/directory</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<resource>
<jssp>
<source-path>
<international>
<directory></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="5">ディレクトリパス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">pages/product/i18n
pages/platform/i18n</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.7.4.2 説明

スクリプト開発モデルの国際化機能に関連した設定項目です。地域化（localization）されたソースを保存するディレクトリを設定します。

スクリプト開発モデルのエンジンは、ここで設定されているディレクトリを親としてロケールを表す文字列をサブディレクトリとしたディレクトリパスをソースを検索する基準ディレクトリとします。
例えば、この設定値が c:/pages/i18n で、現在のロケールが ja_JP の場合、スクリプト開発モデルのエンジンは c:/pages/i18n/ja_JP を親ディレクトリとしてソースを検索します。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.8 サービス部(Serialization Service)

4.1.8.1 intra-mart/platform/service/serialization/enable

SerializeSrv に関する設定です。

4.1.8.1.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/service/serialization/enable					
書式	<intra-mart> <platform> <service> <serialization enable="">					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	―		
			RSrv	―	SerializeSrv	○
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル		―	
			JavaEE 開発モデル		―	
単位				型	真偽値	
設定値	true|false					
デフォルト値	true			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	◎	
	開発	○				

4.1.8.1.2 説明

SerializeSrv を実行するかどうかの設定です。

4.1.8.1.3 注意

StandAlone 型でのサーバ運用を行う場合は、必ず true にしてください。

4.1.8.2 intra-mart/platform/service/serialization/application-lock

アプリケーションロック機能に関する設定です。

4.1.8.2.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/service/serialization/application-lock</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<service>
<serialization>
<application-lock></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">○</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">秒</td><td>型</td><td>正整数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">0-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">0</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>－</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2" colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.8.2.2 説明

アプリケーションロック機能のタイムアウトに関する設定です。

各開発モデルで提供されているアプリケーションロック API を利用した場合の、タイムアウト設定です。ロック API を利用して開始したロックセッションは、この指定時間を経過すると自動的に開放されます。

4.1.8.2.3 注意

ロックのタイムアウトが発生すると、排他制御処理中においてもプログラムが並列実行されてしまい、予期せぬ不具合の原因となる可能性があります。この機能は、開発中にプログラム実行エラーなどでデッドロックしてしまったロックフラグを自動的に開放するための機能としてご利用ください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.9 基本機能部

4.1.9.1 intra-mart/server-charset

サーバの実行に関する設定です。

4.1.9.1.1 ステータス

キー名称	intra-mart/server-charset					
書式	<intra-mart> <server-charset>					
対象	imSM	○				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	○	SerializeSrv	○
			SMSrv	○	StorageSrv	○
			PDSrv	○	ScheduleSrv	○
	imAdmin	○				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	○		
			JavaEE 開発モデル	○		
単位			型	文字列		
設定値	Shift_JIS|EUC-JP|Windows-31J|UTF-8|文字エンコーディング名					
デフォルト値	デフォルトエンコーディング		編集	可		
適用環境	運用	○	重要度	◎		
	開発	○				

4.1.9.1.2 説明

サーバが使用する文字エンコーディング名を指定して下さい。サーバは、この設定を標準文字エンコーディングとしてファイルアクセスを行います。ここに設定できるのは、Java-VM が解釈できる文字エンコーディング名です。文字エンコーディング名に関しては、Java の仕様に依存します。

4.1.9.1.3 注意

この設定を正しく行わないと、文字化け等の原因になります。文字化けは、プログラムの実行時エラーの誘発やパフォーマンスの低下等を招く可能性があります。

4.1.9.2 intra-mart/platform/java

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.2.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td></td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6"></td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3"></td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.9.2.2 説明

サーバプロセスの実行環境（Java-VM）に関する設定です。

AppFramework をご利用の場合、Standalone 環境および AppRSrv の環境では設定の必要はありません（実行環境となる Java-VM に関しては、ご利用の Web アプリケーションサーバ製品にて設定することになります）。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.9.3 intra-mart/platform/java/home

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.3.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/home</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
  <java>
<home></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">パス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">インストール時に設定した JDK ホーム</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.9.3.2 説明

Java のホームディレクトリを設定します。

4.1.9.4 intra-mart/platform/java/server/memory/xms/size

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.4.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/server/memory/xms/size</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java>
<server>
<memory>
<xms size=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">intra-mart/platform/java/server/memory/xms/unit 設定値に依存</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">インストール時に設定した初期ヒープサイズ</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.9.4.2 説明

サーバプロセスが使用する初期ヒープメモリのサイズを設定します。

この設定は、imSP に対する設定なので、imSP という独立したプロセスとして動作していない AppFramework の StandAlone または AppRSrv は設定の必要はありません。

4.1.9.4.3 注意

この設定値は、物理メモリの空き領域より大きくならないように設定するのが好ましいです。また、設定値を小さくすると運用中のメモリ拡張が発生する可能性が高くなり、パフォーマンスに影響しますので、必ず環境および使用状況に合わせた適切な値を設定するようにしてください。

なお、この値は intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/size 設定値よりも小さくなるように設定してください。

この設定は、そのまま Java-VM の実行コマンドオプション-Xms として使用されますので、メモリの設定値と動作仕様に関しては、Java のドキュメントに記載されている-Xms の説明を参照してください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.9.5 intra-mart/platform/java/server/memory/xms/unit

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.5.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/server/memory/xms/unit</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java>
<server>
<memory>
<xms unit=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>定数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">k | m | g</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">m</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.9.5.2 説明

サーバプロセスが使用する初期ヒープメモリサイズ設定の単位を設定します。

この設定は、imSP に対する設定なので、imSP という独立したプロセスとして動作していない AppFramework の StandAlone または AppRSrv は設定の必要はありません。

4.1.9.5.3 注意

この設定値は、intra-mart/platform/java/server/memory/xms/size の単位を表します。無指定の場合はバイトになります。この項目に対する設定可能な定数値は、『k』(キロバイト)、『m』(メガバイト)、『g』(ギガバイト)のみです。これ以外の文字を設定した場合、サーバ起動エラー等を招き正常なシステム運用ができなくなりますので注意してください。

この設定は、intra-mart/platform/java/server/memory/xms/size と合わせて Java-VM の実行コマンドオプション -Xms として使用されますので、メモリの設定値と動作仕様に関しては、Java のドキュメントに記載されている-Xms の説明を参照してください。

4.1.9.6 intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/size

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.6.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/size</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java>
<server>
<memory>
<xmx size=""></td></tr>
<tr><td rowspan="11">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3">intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/unit 設定値に依存</td><td>型</td><td>自然数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">1-65535</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">インストール時に設定した最大ヒープサイズ</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td colspan="2">運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td colspan="2">開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.9.6.2 説明

サーバプロセスが使用する最大ヒープメモリのサイズを設定します。

この設定は、imSP に対する設定なので、imSP という独立したプロセスとして動作していない AppFramework の StandAlone または AppRSrv は設定の必要はありません。

4.1.9.6.3 注意

この設定値は、物理メモリの空き領域より大きくならないように設定するのが好ましいです。また、設定値を小さくすると運用中に OutOuMemoryError が発生する可能性が高くなりますので、必ず環境および使用状況に合わせた適切な値を設定するようにしてください。

なお、この値は intra-mart/platform/java/server/memory/xms/size 設定値よりも大きくなるように設定してください。

この設定は、そのまま Java-VM の実行コマンドオプション-Xmx として使用されますので、メモリの設定値と動作仕様に関しては、Java のドキュメントに記載されている-Xmx の説明を参照してください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.9.7 intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/unit

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.7.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/unit</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java>
<server>
<memory>
<xmx unit=""></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>定数</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">k | m | g</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">m</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.9.7.2 説明

サーバプロセスが使用する最大ヒープメモリサイズ設定の単位を設定します。

この設定は、imSP に対する設定なので、imSP という独立したプロセスとして動作していない AppFramework の StandAlone または AppRSrv は設定の必要はありません。

4.1.9.7.3 注意

この設定値は、intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/size の単位を表します。無指定の場合はバイトになります。この項目に対する設定可能な定数値は、『k』(キロバイト)、『m』(メガバイト)、『g』(ギガバイト)のみです。これ以外の文字を設定した場合、サーバ起動エラー等を招き正常なシステム運用ができなくなりますので注意してください。

この設定は、intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/size と合わせて Java-VM の実行コマンドオプション -Xmx として使用されますので、メモリの設定値と動作仕様に関しては、Java のドキュメントに記載されている-Xmx の説明を参照してください。

4.1.9.8 intra-mart/platform/java/server/command/exefile

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.8.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/server/command/exefile</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java>
<server>
<command>
<exefile></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">－</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">ファイルパス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3"><JDK ホーム>/bin/java</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.9.8.2 説明

サーバプロセス起動用の java コマンドを指定してください。

この設定は、imSP に対する設定なので、imSP という独立したプロセスとして動作していない AppFramework の StandAlone または AppRSrv は設定の必要はありません。

4.1.9.8.3 注意

imSP が動作するコンピュータに複数のバージョンの Java 実行環境がインストールされている場合、この設定項目に Java 実行コマンドを絶対パス形式で指定することで任意の Java 実行環境でサーバを運用することができます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.9.9 intra-mart/platform/java/server/command/option

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.9.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/server/command/option</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java>
<server>
<command>
<option></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="3">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">java コマンドに対するオプション</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">-cp %SYSTEMCLASSPATH%
-Xms%XMS%
-Xmx%XMX%
-Djava.awt.headless=true
-Dcom.sun.management.jmxremote</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.9.9.2 説明

サーバプロセス起動用の java コマンドに対する任意のオプションを指定してください。

この設定は、imSP に対する設定なので、imSP という独立したプロセスとして動作していない AppFramework の StandAlone または AppRSrv は設定の必要はありません。

4.1.9.9.3 注意

intra-mart/platform/java/server/command/exefile に設定された java 実行コマンドとこの設定値を利用してサーバ本体プロセスが起動されます。オプションには、自動的に設定される置換変数がいくつか用意されています。

%XMS%	初期ヒープメモリサイズ
%XMX%	最大ヒープメモリサイズ
%SYSTEMCLASSPATH%	ServicePlatform の起動に必要なクラスパス

なお、『%XMS%』および『%XMX%』は、設定項目 intra-mart/platform/java/server/memory/xms および intra-mart/platform/java/server/memory/xmx の設定値によって自動的に決定されます。サーバ内の一部の機能は、これらの設定値を総合的に判断してサービスを提供していますので、設定項目間の整合性が保たれなくなるとサーバ機能が正常に運用できなくなる危険性があります。メモリ指定に関しては、このオプション設定項目で固定値を記述しないで、メモリ設定項目に正しく値を設定した上で、このオプション設定では上記の置換変数を利用するようにしてください。

『%SYSTEMCLASSPATH%』のクラスパスは起動時に自動的に決定されます。java のクラスパスオプションには必ず『%SYSTEMCLASSPATH%』を指定してください。

4.1.9.10 intra-mart/platform/java/server/command/argument

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.10.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/server/command/argument</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java>
<server>
<command>
<argument></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>ImSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">ImSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>○</td><td>SerializeSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>○</td><td>StorageSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>○</td><td>ScheduleSrv</td><td>○</td></tr>
<tr><td>ImAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">Java アプリケーションに対する引数</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">設定無</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">－</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">－</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">－</td></tr>
</table>

4.1.9.10.2 説明

Java アプリケーション（サーバ本体）に対する引数。通常は指定の必要はありません。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.9.11 intra-mart/platform/java/compiler/class/path

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.11.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/compiler/class/path</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java>
<compiler>
<class>
<path></td></tr>
<tr><td rowspan="10">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="6">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">パス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3"></td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td>○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td>○</td></tr>
</table>

4.1.9.11.2 説明

Java のコンパイラのクラスパスを設定します。

この設定項目には、クラスファイルの保存されているディレクトリを指定してください。

指定するディレクトリが複数存在する場合は、環境に合わせたパス区切り文字でパスを連結してください。

※インストール直後は、この設定は記述されていません。

4.1.9.12 intra-mart/platform/java/compiler/class/archive/file

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.12.1 ステータス

<table>
<tr><td>キー名称</td><td colspan="6">intra-mart/platform/java/compiler/class/archive/file</td></tr>
<tr><td>書式</td><td colspan="6"><intra-mart>
<platform>
<java>
<compiler>
<class>
<archive>
<file></td></tr>
<tr><td rowspan="9">対象</td><td>imSM</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td rowspan="5">imSP</td><td>StandAlone</td><td colspan="5">○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">Multiple</td><td>AppRSrv</td><td colspan="4">○</td></tr>
<tr><td>RSrv</td><td>－</td><td>SerializeSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>SMSrv</td><td>－</td><td>StorageSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>PDSrv</td><td>－</td><td>ScheduleSrv</td><td>－</td></tr>
<tr><td>imAdmin</td><td colspan="5">－</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">プログラミングモデル</td><td colspan="2">スクリプト開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td colspan="2">JavaEE 開発モデル</td><td colspan="2">－</td></tr>
<tr><td>単位</td><td colspan="3"></td><td>型</td><td>文字列</td></tr>
<tr><td>設定値</td><td colspan="6">パス</td></tr>
<tr><td>デフォルト値</td><td colspan="3">設定無</td><td>編集</td><td>可</td></tr>
<tr><td rowspan="2">適用環境</td><td>運用</td><td colspan="2">○</td><td rowspan="2">重要度</td><td rowspan="2">◎</td></tr>
<tr><td>開発</td><td colspan="2">○</td></tr>
</table>

4.1.9.12.2 説明

Java のコンパイラのクラスパスを設定します。

この設定項目には、アーカイブファイル（jar または zip）を指定してください。指定するアーカイブファイルが複数存在する場合は、環境に合わせたパス区切り文字でパスを連結してください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.1.9.13 intra-mart/platform/java/compiler/class/archive/directory

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.13.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/java/compiler/class/archive/directory					
書式	<intra-mart> <platform> <java> <compiler> <class> <archive> <directory>					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	―	SerializeSrv	―
			SMSrv	―	StorageSrv	―
			PDSrv	―	ScheduleSrv	―
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	―		
			JavaEE 開発モデル	―		
単位				型	文字列	
設定値	パス					
デフォルト値				編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	◎	
	開発	○				

4.1.9.13.2 説明

Java のコンパイラのクラスパスを設定します。

この設定項目には、アーカイブファイル（jar または zip）の保存されているディレクトリを指定してください。指定するディレクトリが複数存在する場合は、環境に合わせたパス区切り文字でパスを連結してください。

この設定は、指定するアーカイブファイルが複数存在する場合に便利です。

※インストール直後は、この設定は記述されていません。

4.1.9.14 intra-mart/platform/fail-safe/enable

imSP が動作するサーバプロセスに関する設定です。

4.1.9.14.1 ステータス

キー名称	intra-mart/platform/fail-safe/enable					
書式	<intra-mart> <platform> <fail-safe enable="">					
対象	imSM	―				
	imSP	StandAlone	○			
		Multiple	AppRSrv	○		
			RSrv	○	SerializeSrv	○
			SMSrv	○	StorageSrv	○
			PDSrv	○	ScheduleSrv	○
	imAdmin	―				
	プログラミングモデル		スクリプト開発モデル	―		
			JavaEE 開発モデル	―		
単位				型	真偽値	
設定値	true|false					
デフォルト値	false			編集	可	
適用環境	運用	○		重要度	◎	
	開発	―				

4.1.9.14.2 説明

サーバプロセスのフェールセーフ機能の利用有無に関する設定です。

この設定は、imSP に対する設定なので、imSP という独立したプロセスとして動作していない AppFramework の StandAlone または AppRSrv は設定の必要はありません。

4.1.9.14.3 注意

imSP プロセスが何らかの理由により停止してしまった場合、自動的にサーバプロセスを再起動する機能です。

ただし、サーバが動作しているハードウェアが停止してしまったり、サーバプロセスを監視するプロセスが停止してしまった場合は、この機能が働きません。

また、この機能は intra-mart AppFramework の AppRSrv が動作するサーバ（Standalone 型を含む）では機能しません（intra-mart Service Platform プロセス専用の機能となっています）。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.2 source-config.xml

source-config.xml はスクリプト開発モデル専用の設定ファイルです。このファイルは、スクリプト開発モデルのソース(および実行)に関する設定情報が定義されています。

設定ファイル source-config.xml は、ディレクトリに対して有効であり、そのディレクトリのサブディレクトリについても再帰的に影響を及ぼします。つまり、最も浅い階層に設定ファイルを配置する事により、そのディレクトリ以下のすべてのソースに対して設定内容を適用する事ができます。

4.2.1 文字エンコーディング

キー名称	/resource-file/charset			
書式	<resource-file> <charset>			
単位			型	文字列
設定値	文字エンコーディング名(Windows-31J|Shift_JIS|EUC-JP|UTF-8)			
デフォルト値	ASCII		編集	可
適用環境	運用	○	重要度	◎
	開発	○		

ソースの文字エンコーディングの指定です。サーバは、この文字エンコーディングを使ってソースを Unicode に変換して実行します。

4.2.2 JavaScript コンパイラの設定

キー名称	/resource-file/javascript/compiler/enable			
書式	<resource-file> <javascript> <compiler enable="">			
単位			型	真偽値
設定値	true|false			
デフォルト値	false		編集	可
適用環境	運用	○	重要度	◎
	開発	○		

Function-Container(JavaScript ファイル)を Java クラスへコンパイルするかどうかの設定です。

- 真値(true)
  JavaScript を Java クラスへコンパイルして実行します。コンパイル後は、Java のクラスファイルが作成され、以後のプログラム実行は、すべてクラスによる実行になります。パフォーマンスは向上しますが、ソースの変更が一切反映されなくなります(ソースの変更を反映するにはサーバを再起動しなければいけません)。この設定は、運用環境向き設定です。
- 偽値(false)
  JavaScript をインタプリタモードで実行します。ソースの変更は、直後の実行に反映されます。開発をスムーズに進めることができますが、常にソースをリード→解析するため、実行パフォーマンスは期待できません。この設定は、開発環境向き設定です。

4.2.3 JavaScript 最適化レベル

キー名称	/resource-file/javascript/optimize/level			
書式	<resource-file> <javascript> <optimize level="">			
単位			型	整数
設定値	0-9			
デフォルト値	0		編集	可
適用環境	運用	○	重要度	ー
	開発	○		

Function-Container（JavaScript ファイル）のプログラム解析における最適化レベルの設定です。数値が大きいほど最適化の適用範囲が大きくなります。0 を設定した場合は、最適化はされません。

プログラムを最適化して実行する事は、パフォーマンスの向上を期待できますが、半面、最適化そのものがデリケートかつ複雑な機能な為、プログラムの内容によって通常では発生しないエラーとなる場合があります。

最適化レベルを適用する場合は、その適用範囲を必要最低限とし、十分に動作検証を行ってください。

4.2.4 View コンパイラの設定

キー名称	/resource-file/view/compiler/enable			
書式	<resource-file> <view> <compiler enable="">			
単位			型	真偽値
設定値	true|false			
デフォルト値	false		編集	可
適用環境	運用	○	重要度	◎
	開発	○		

Presentation-Page（html ファイル）をコンパイルするかどうかの設定です。

- 真値（true）
  html をコンパイルして実行します。コンパイル後は、中間ファイル（バイナリ）が作成され、以後のプログラム実行は、すべて中間ファイルによる実行となります。パフォーマンスは向上しますが、ソースの変更が一切反映されなくなります（ソースの変更を反映するにはサーバを再起動しなければいけません）。この設定は、運用環境向き設定です。
- 偽値（false）
  html をインタプリタモードで実行します。ソースの変更は、直後の実行に反映されます。開発をスムーズに進めることができますが、常にソースをリード→解析するため、実行パフォーマンスは期待できません。この設定は、開発環境向き設定です。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3 doc/imart/WEB-INF/web.xml

web.xml とは、Web アプリケーションに関する設定ファイルです。intra-mart は Web アプリケーションを実行するためのプラットフォームであると同時に、アクセスセキュリティ機能などのアプリケーション的な機能は、すべて Web アプリケーションとして実装されています。
ここでは、intra-mart が標準で提供しているサーブレットおよびフィルタに関して、その種類と目的を説明します。

4.3.1 Servlet

サーブレットには、スクリプト開発モデルや im-JavaEE Framework などを処理するものがあります。通常はシステム運用に必須なものばかりとなっていますので、無闇に設定を変更するとシステムが動作しなくなることがあります。
なお、下記に説明のないサーブレットは、サンプルまたはチュートリアルのための設定となっています。運用時には削除してしまっても構いません。

4.3.1.1 スクリプト開発モデル用サーブレット

サーブレット名	JSSPServlet
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.jssp.JSSPServlet
引数	file.separator
URL パターン	*.jssp

スクリプト開発モデルのプレゼンテーション層実行エンジンです。

引数 file.separator に指定した文字をディレクトリおよびファイルのパス区切り文字として認識します。
例えば、file.separator に「*」を指定した場合、次の URL http://～/imart/aaa*bbb*ccc.jssp という指定で aaa/bbb/ccc.html および aaa/bbb/ccc.js が実行されます。

4.3.1.2 スクリプト開発モデル用サーブレット（セキュリティ付）

サーブレット名	SecureJSSPServlet
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.jssp.SecureJSSPServlet
引数	security
URL パターン	*.jssps

<IMART>タグの link,frame,form,submit を利用してページ遷移した場合に動作します。URL とセッションを結びつけてセキュリティチェックをするため、URL を改竄してアクセスした場合、このサーブレットはページプログラムを実行せずにエラーをスローします。

引数 security を false に設定すると、URL の整合性チェックを行いません。セキュリティレベルは低下しますが、市販ツールを利用した多重アクセス試験等を実施する場合、この設定を false にすることで整合性エラーを発生させずに動作検証をすることができます。

4.3.1.3 <IMART type="jsspRpc">用サーブレット

サーブレット名	JsspRpcServlet
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.jssp.JsspRpcServlet
引数	security
URL パターン	*.jssprpc

<IMART type="jsspRpc">タグを利用してサーバサイドロジックが呼び出された際に動作します。<IMART type="jsspRpc">タグが内部で生成した URL とセッションを結びつけてセキュリティチェックをするため、URL を改竄してアクセスした場合、このサーブレットはページプログラムを実行せずにエラーをスローします。

引数 security を false に設定すると、URL の整合性チェックを行いません。セキュリティレベルは低下しますが、整合性エラーを発生させずに動作検証をすることができます。

4.3.1.4 一般ユーザ用ログイン画面

サーブレット名	UserInitialServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.servlet.UserInitialServlet
引数	client-type
URL パターン	*.portal

一般ユーザでアクセスする初期画面（通常はログイン画面）用サーブレットです。

引数 client-type には、クライアントの種類を表すキーワードを指定します。通常は、pc です。

4.3.1.5 一般ユーザの為のモバイル用ログイン画面

サーブレット名	UserInitialServletForMobile
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.servlet.UserInitialServlet
引数	client-type
URL パターン	*.mobile

一般ユーザでアクセスする初期画面（通常はログイン画面）用サーブレットです。こちらは、モバイル（i-mode）からアクセスされた時の為の設定です。

引数 client-type には、クライアントの種類を表すキーワードを指定します。通常は、mobile です。

4.3.1.6 メイン画面用サーブレット

サーブレット名	UserCertificationServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.servlet.UserCertificationServlet
引数	なし
URL パターン	/user.login

メイン画面（ログイン後の初期画面）のためサーブレットです。
各ログイン画面からアクセスされます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.1.7 ログイングループ管理者用ログイン画面

サーブレット名	GroupSuperUserInitialServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.servlet.GroupSuperUserInitialServlet
引数	なし
URL パターン	*.manager

ログイングループ管理者のためのログイン画面を表示するサーブレットです。

4.3.1.8 システム管理者用ログイン画面

サーブレット名	SuperUserInitialServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.servlet.SuperUserInitialServlet
引数	なし
URL パターン	/system.admin

システム管理者のためのログイン画面を表示するサーブレットです。

4.3.1.9 タグライブラリ API と連動するサーブレット

サーブレット名	pushlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.core.taglib.utilities.push.Pushlet
引数	なし
URL パターン	/pushlet

intra-mart WebPlatform/AppFramework が提供するタグライブラリ API が動作するときに使用するサーブレットです。

4.3.1.10 タグライブラリ API と連動するサーブレット

サーブレット名	postlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.core.taglib.utilities.push.Postlet
引数	なし
URL パターン	/postlet

intra-mart WebPlatform/AppFramework が提供するタグライブラリ API が動作するときに使用するサーブレットです。

4.3.1.11 サービスフレームワーク（im-JavaEE Framework）用サーブレット

サーブレット名	ServiceServlet
クラス	jp.co.intra_mart.framework.base.service.ServiceServlet
引数	なし
URL パターン	*.service

im-JavaEE Framework のサービスフレームワークを利用した画面を制御するためのサーブレットです。サービスフレームワークで開発されたアプリケーションにより利用されます。

http://～/imart/[アプリケーションID]-[サービスID].service という URL でアクセスします。詳細は、im-JavaEE Framework の仕様書をご覧ください。

なお、製品に標準装備されているポータル機能やドキュメントワークフロー機能は、im-JavaEE Framework により構築されています。このサーブレット設定を変更した場合、これらの機能が正常に動作しなくなる場合や、システム全体が正常に機能しなくなってしまう場合があります。

4.3.1.12 外部ソフトウェア接続モジュールのためのサーブレット

サーブレット名	HTTPActionEventListener
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.HTTPActionEventListenerServlet
引数	説明を参照
URL パターン	/HTTPActionEventListener

外部ソフトウェア接続モジュール（jp.co.intra_mart.foundation.service.client.application.*）を利用して外部から intra-mart の機能を利用する場合に使われます。
なお、外部ソフトウェア接続モジュールで利用しない Application Runtime では、このサーブレットが使われることはありません。このような場合、セキュリティ面を考慮して設定を無効にしてもかまいません。

指定可能な引数については、以下のとおりです。

- accept.expire
  要求の有効期限です。イベント実行のためのリクエストが作成されてから、設定値（秒）を経過すると、そのリクエストは無効となります。
- jssp.uri.prefix
  スクリプト開発モデルに接続するための URI のプレフィックスです。
- framework.service.uri.prefix
  サービスフレームワークに接続するための URI のプレフィックスです。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.1.13 グラフ描画モジュールの画像処理サーブレット

サーブレット名	ImageDrawer
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.DrawerServlet
引数	なし
URL パターン	*.imid

グラフ描画モジュールを利用した場合に、実際に画像データを処理するのがこのサーブレットです。

グラフ描画モジュールを利用しない場合は、この設定を無効にしてしまってもかまいません。

4.3.1.14 BPW のフロー定義画面用サーブレット

サーブレット名	BPWAppletServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.bpw.designer.BPWDesignerServlet
引数	なし
URL パターン	/BPWAppletServlet

BPW デザイナ（Java アプレットで実装されたフローの編集画面）とのデータ通信に使われます。

4.3.1.15 BPW のフロー確認画面表示用サーブレット

サーブレット名	DispFlowInfoServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.bpw.common.FlowInfo.DispFlowInfoServlet
引数	なし
URL パターン	/DispFlowInfoServlet

BPW のフロー確認画面の画像を作成し、表示するためのサーブレットです。

4.3.1.16 BPW のフロー確認画面のアイコン制御用サーブレット

サーブレット名	GetFlowIconServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.bpw.common.FlowInfo.GetFlowIconServlet
引数	なし
URL パターン	/GetFlowIconServlet

BPW のフロー確認画面に表示されるアイコンを選択・制御をするサーブレットです。

4.3.1.17 ワークフロー（BPW）メンテナンス用サーブレット

サーブレット名	BPWDesignerInsertServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.bpw.designer.BPWDesignerInsertServlet
引数	なし
URL パターン	/BPWDesignerInsertServlet

ワークフロー（BPW）のメンテナンスを行う場合に使用するサーブレットです。このサーブレット設定を変更するとワークフロー（BPW）のメンテナンスができなくなる可能性がありますので十分に注意してください。

なお、BPW（Advanced 版に同梱）もこのサーブレットを利用しますので、BPW を導入する場合はこのサーブレットの設定を変更しないで下さい。

4.3.1.18 ワークフロー（BPW）情報表示用サーブレット

サーブレット名	BPWDesignerSelectServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.bpw.designer.BPWDesignerSelectServlet
引数	なし
URL パターン	/BPWDesignerSelectServlet

ワークフロー（BPW）の画面に対する表示情報を処理するサーブレットです。このサーブレット設定を変更するとワークフロー（BPW）機能（ドキュメントワークフローを含む）を利用できなくなってしまう可能性がありますので十分に注意してください。

なお、BPW（Advanced 版に同梱）もこのサーブレットを利用しますので、BPW を導入する場合はこのサーブレットの設定を変更しないで下さい。

4.3.1.19 ワークフロー（BPW）添付情報ファイルダウンロード用サーブレット

サーブレット名	BPWFileDownloadServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.bpw.common.download.FileDownloadServlet
引数	なし
URL パターン	/BPWFileDownloadServlet

ワークフロー（BPW）におけるファイルダウンロード機能を提供するサーブレットです。このサーブレット設定を変更するとワークフロー（BPW）機能（ドキュメントワークフローを含む）を利用できなくなってしまう可能性がありますので十分に注意してください。

なお、BPW（Advanced 版に同梱）もこのサーブレットを利用しますので、BPW を導入する場合はこのサーブレットの設定を変更しないで下さい。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.1.20 BPW の追加検索画面用サーブレット(プロセス定義リスト)

サーブレット名	GetProcessDefCombDataServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.bpw.common.view.GetProcessDefCombDataServlet
引数	なし
URL パターン	/GetProcessDefCombDataServlet

BPW の追加検索画面のプロセス定義リストを作成し、表示するためのサーブレットです。

4.3.1.21 BPW の追加検索画面用サーブレット(バージョンリスト)

サーブレット名	GetVersionCombDataServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.bpw.common.view.GetVersionCombDataServlet
引数	なし
URL パターン	/GetVersionCombDataServlet

BPW の追加検索画面のバージョンリストを作成し、表示するためのサーブレットです。

4.3.1.22 BPW の追加検索画面用サーブレット(処理リスト)

サーブレット名	GetActivityCombDataServlet
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.bpw.common.view.GetActivityCombDataServlet
引数	なし
URL パターン	/GetActivityCombDataServlet

BPW の追加検索画面の処理リストを作成し、表示するためのサーブレットです。

4.3.1.23 シングルサインオン機能のためのサーブレット

サーブレット名	CertServlet
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.CertServlet
引数	なし
URL パターン	/CertServlet

エクステンション製品 im-SecureSignOn（別売）と連携するためのサーブレットです。このサーブレットは、シングルサインオン環境を実現するためのユーザ認証を行います。なお、このサーブレットは im-SecureSignOn（別売）連携用の専用プログラムとなっています。im-SecureSignOn（別売）以外のシングルサインオン製品との連携はできませんので、ご注意ください。
シングルサインオン環境は構築せずに、本製品を単体で運用する場合は、この設定を無効にしてもかまいません。

4.3.1.24 EJB コンテナ機能のためのサーブレット

サーブレット名	EJBServlet	
クラス	com.caucho.hessian.EJBServlet	
引数	url-prefix	EJB の URL プレフィックス
URL パターン	/ejb/*	

intra-mart WebPlatform Advanced 版、Enterprise 版をご利用の場合のみ利用可能なサーブレットです。Application Runtime を EJB コンテナとして利用する場合に設定を有効にしてください。EJB コンテナ機能を利用しない場合は、必ずしも設定を有効にする必要はありません。設定を無効にしたままでも運用が可能です。なお、intra-mart WebPlatform Advanced 版、Enterprise 版以外の製品（Standard 版および intra-mart AppFramework）をご利用の場合、この設定を有効にすると設定エラーになりますのでご注意ください。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.1.25 マスカット連携用サーブレット(スクリプト開発デモル)

サーブレット名	MKJSServlet
クラス	jp.co.intra_mart.extension.maskat.servlet.MKJSServlet
引数	説明を参照
URL パターン	/MKJSServlet

マスカットからのリクエストを解析し、サーバサイド Javascript を実行するサーブレットです。
マスカット連携に関する仕様は「マスカット連携ガイド」を参照してください。

指定可能な引数については、以下のとおりです。

- srcDir
  JS ファイル格納ディレクトリ。
  スクリプト開発モデルのプログラム検索ディレクトリからのパスを指定します。
  デフォルトでは以下のパスが対象となります。
  - pages/src/maskat
  - pages/product/src/maskat
  - pages/platform/src/maskat

4.3.1.26 マスカット連携用サーブレット(im-JavaEE Framework)

サーブレット名	MKServiceServlet
クラス	jp.co.intra_mart.extension.maskat.servlet.MKServiceServlet
引数	なし
URL パターン	/MKServiceServlet

マスカットからのリクエストを解析し、im-JavaEE Framework を実行するサーブレットです。
マスカット連携に関する仕様は「マスカット連携ガイド」を参照してください。

4.3.2 Filter

フィルタには、intra-mart が動作する上で必要なものから、様々な情報を収集するためのものや便利な機能を提供するためのものまで幅広く用意されています。各フィルタの目的を理解した上で、システム運用にお役立て下さい。
なお、フィルタは定義順が非常に重要な意味を持ちます。設定を変更する際は、定義順に十分注意をしてください。

4.3.2.1 エラーページを制御するフィルタ

フィルタ名	ExceptionHandlingFilter
クラス	jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.ExceptionHandlingFilter

要求の処理中に発生した例外別に表示するエラーページを制御するフィルタです。
エラーページを制御する例外は、Java 標準の例外（java.lang.Exception）のみでなく、独自に定義した例外（java.lang.Throwable のサブクラス）にも対応しています。条件となる例外と、その例外が発生した時に表示するページに関しては、初期化パラメータ path.mapping に定義されている設定ファイルに記述します。

標準：jp/co/intra_mart/resources/common/aid/jsdk/javax/servlet/filter/error_page_mapping.xml

この設定ファイルは、クラスパスから検索されます。通常は、WEB-INF/classes に配置してください。

設定されている条件（Exception）に合致した場合、設定されているページ（JSP,Servlet や html など）に対して、javax.servlet.RequestDispatcher の forward 機能により処理が移されます。
このフィルタは、できるだけ先に動作するように設定することで、もっとも良い結果を得ることができます。

初期化パラメータ exception.cause.enable は、このフィルタの次のチェーン以降でスローされた javax.servlet.ServletException に対して、#printStackTrace() を実行した際に、その原因となった例外（#getRootCause()が返す値）も Caused by で表示されるように例外を加工します。エラーの原因を特定し易い環境になるため、通常は true を設定してください。

4.3.2.2 ページの処理時間を計測するフィルタ

フィルタ名	ResponseMonitoringFilter
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.ResponseMonitoringFilter

このフィルタは、javax.servlet.FilterChain の#doFilter()実行前後の時刻を取得し、その差をページの処理時間として計測します。このフィルタは、できるだけ先に動作するように設定することで、このフィルタ以降に実行されるフィルタの処理時間も含めて、より正確にページ処理時間を計測することができます。
このフィルタにより計測されたページ処理時間情報は、im-Administrator のパフォーマンス画面にて確認することができます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.2.3 リクエストを制限するフィルタ1

フィルタ名	RequestQueryLengthMonitoringFilter
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.RequestQueryLengthMonitoringFilter

リクエストのクエリの長さによるページ処理を制御するフィルタです。
クエリの長さが一定量を超えている場合、このフィルタは doFilter をせずに、例外をスローしてエラー終了します。
エラー終了時にスローされる例外は、下記クラスのインスタンスです。

jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.exception.RequestEntityTooLargeException

また、このフィルタは一定サイズ以上のクエリを伴ったリクエストに関しては並列に処理されないように制御します。
つまり、クエリの小さなリクエストは即座に doFilter により処理を進めますが、クエリの大きなリクエストについては、synchronized により doFilter を直列処理します。この機能により、サーバを過負荷から守ることができます。
ただし、クエリの大きなリクエストについては、この機能により処理待ちが発生することがあります。処理待ちの待ち行列には、エントリの上限が設定されていて、キューに溜められた処理待ちのリクエストが一定数を超えると例外をスローしてエラー終了します。このキュー飽和に伴うエラー終了時にスローされる例外は、下記クラスのインスタンスです。

jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.exception.ServiceUnavailableException

なお、エラー条件となるクエリの長さやキューのサイズは、設定ファイル conf/imart.xml で設定します。
intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/queue
intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/query/length

このフィルタともう一つのリクエスト制御フィルタ RequestControlFilter との定義順により、リクエストの待ち行列に溜められ方や処理順が変わりますのでご注意ください。

このフィルタの前に ExceptionHandlingFilter フィルタが動作するように定義することで、エラー判定時のエラー画面表示を制御することができます（エラー画面の設定は、設定ファイル conf/imart.xml に定義します）。

4.3.2.4 リクエストを制限するフィルタ2

フィルタ名	RequestControlFilter
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.RequestControlFilter

リクエストを同時処理制限数内で doFilter することを制御するフィルタです。同時処理制限数を超えるリクエストを受け付けた場合、制限数を超えたリクエストに関しては受け付け順にキューに溜められて処理待ちとなります。
処理待ちとなるキューには溜めることの出来る最大数が決められていて、キューの大きさを超えた場合は、例外をスローしてエラー終了します。エラー終了時にスローされる例外は、下記クラスのインスタンスです。

jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.exception.ServiceUnavailableException

なお、同時処理制限数やキューのサイズに関しては、設定ファイル conf/imart.xml で設定します。
intra-mart/platform/service/application/http/accept/queue
intra-mart/platform/service/application/http/accept/query/length

このフィルタともう一つのリクエスト制御フィルタ RequestQueryLengthMonitoringFilter との定義順により、リクエストの待ち行列に溜められ方や処理順が変わりますのでご注意ください。

このフィルタの前に ExceptionHandlingFilter フィルタが動作するように定義することで、エラー判定時のエラー画面表示を制御することができます（エラー画面の設定は、設定ファイル conf/imart.xml に定義します）。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.2.5 文字化けに対応するフィルタ

フィルタ名	LuxuryResponseWriterFilter
クラス	jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.LuxuryResponseWriterFilter

Java を利用してネイティブ文字コードから Unicode を介して他のネイティブ文字コードに変換する場合、本来その文字コードで存在する文字が文字『？』に変換されてしまうという、いわゆる文字化けが発生する事があります。これは、Java-VM が持つ文字マッピング表の違いによる場合があります。
このフィルタは、これに対応した出力を提供します。

例えば、EUC-JP の文字『～』(波線)を Java で Unicode に変換後、Windows-31J に文字コード変換すると、文字『?』になってしまいます。本来 Windows-31J という文字コードでは『～』という文字があるのですがマッピング不能と判断されて文字『?』に置換されてしまうことが原因です。

このフィルタは、java.servlet.http.HttpServletResponse をラップします。このフィルタによってラップされた java.servlet.http.HttpServletResponse は、#getOutputStream()および#getWriter()をオーバーライドしています。オーバーライドされたメソッドは、それぞれ文字化けに対応した javax.servlet.ServletOutputStream および java.io.PrintStream を返します。

このフィルタでは、以下の文字エンコーディングおよび文字に対応しています。

EUC-JP	～	全角波線
	－	全角負符号
	∥	全角双柱
	￢	全角否定記号
	―	全角横罫線
	￠	全角セント記号
	￡	全角ポンド記号
Shift_JIS	～	全角波線
	－	全角負符号
	∥	全角双柱
	￢	全角否定記号
	―	全角横罫線
	￠	全角セント記号
	￡	全角ポンド記号
WIndows-31J	～	全角波線
	－	全角負符号
	∥	全角双柱
	￢	全角否定記号
	―	全角横罫線
	￠	全角セント記号
	￡	全角ポンド記号

なお、このフィルタが対象としている文字エンコーディングおよび文字は、基本的には上記のもののみです。
ただし、基本的な動作は
jp.co.intra_mart.common.aid.jdk.util.charset.CharacterMappingBuilder の仕様に準じます。したがって、設定等の変更により対象とする文字エンコーディングおよび文字の範囲が変わる場合があります。

4.3.2.6 再接続のためのURLを変換するフィルタ

フィルタ名	AbsoluteLinkFilter
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.AbsoluteLinkFilter

外部アプリケーション接続モジュールを利用した場合に、URLの変換を行うためのフィルタです。

このフィルタは、javax.servlet.http.HttpServletResponse をラップします。
ラップされた javax.servlet.http.HttpServletResponse は、#encodeURL(java.lang.String)をオーバーライドしています。
オーバーライドされたメソッド#encodeURL(java.lang.String)は、必ず完全な形式のURLを返すようになります。

このフィルタは、
jp.co.intra_mart.foundation.service.client.application.content. AccessibleLinkHTTPActionEventFilterHandler クラスを利用したセッションにのみ機能します。他のセッションに関するリクエストは、javax.servlet.http.HttpServletResponse をラップせずに次のフィルタチェーンを実行します。

4.3.2.7 セッションを制御するフィルタ

フィルタ名	SessionFilter
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.filter.SessionFilter

アクセスセキュリティ機能でセッションが有効であるかどうかをチェックするためのフィルタです。このフィルタを設定しない場合、ログインセッションが無効であることを判定できなくなり、セキュリティレベルが著しく低下します。

初期化パラメータ flash-header は、現在のリクエストが Flash アプリケーションから送信されたものかどうかを判定するための設定で、アクセスセキュリティ等の Flash で実装されている標準画面と連携するために必要な設定です。

4.3.2.8 アクティブセッションを制御するフィルタ

フィルタ名	ActiveSessionFilter
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.filter.ActiveSessionFilter

ユーザによって無効にされたアクティブセッションを検出するためのフィルタです。アクティブセッションとは、フィルタ SessionFilter によって有効であると判断されたセッションのことを表します。管理者によりアクティブなセッションを無効にする機能、また二重ログインを防止する機能を利用する場合、このフィルタを設定してください。ただし、フィルタ SessionFilter が設定された各サーブレットの最後に設定してください。

初期化パラメータ flash-header は、現在のリクエストが Flash アプリケーションから送信されたものかどうかを判定するための設定で、アクセスセキュリティ等の Flash で実装されている標準画面と連携するために必要な設定です。
初期化パラメータ session-invalidated-header は、アクティブセッションが無効になったことをレスポンスヘッダで通知するために使用するレスポンスヘッダ名の設定で、Flash や XMLHttpRequest を使用した標準画面と連携するために必要な設定です。初期化パラメータ attr-do-filter は、フィルタの複数回実行を抑止するために使用するリクエストパラメータ名の設定です。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.2.9 二重ログインを防止するフィルタ

フィルタ名	DuplicateLoginHandlingFilter
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.filter.DuplicateLoginHandlingFilter

二重ログインを防止するためのフィルタです。二重ログインとは、同じユーザ ID のアクティブセッションが2つ以上存在する状態を表します。二重ログイン防止機能を利用する場合、このフィルタを設定してください。ただし、フィルタ ActiveSessionFilter が設定された各サーブレットの最後に設定してください。

初期化パラメータ flash-header は、現在のリクエストが Flash アプリケーションから送信されたものかどうかを判定するための設定で、アクセスセキュリティ等の Flash で実装されている標準画面と連携するために必要な設定です。初期化パラメータ duplicate-login-header は、二重ログインしていることレスポンスヘッダでで通知するために使用するレスポンスヘッダ名の設定で、Flash や XMLHttpRequest を使用した標準画面と連携するために必要な設定です。初期化パラメータ attr-do-filter は、フィルタの複数回実行を抑止するために使用するリクエストパラメータ名の設定です。

4.3.2.10 アクセス制御を行うフィルタ

フィルタ名	URLAccessFilter
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.filter.URLAccessFilter

このフィルタは、アクセスセキュリティ機能の一部です。
システム管理者、ログイングループ管理者、一般ユーザの区分によって決められたパス以外へのアクセスを制限します。

例えば、一般ユーザでログインしている最中にシステム管理者権限のページをリクエストしようとした場合、そのリクエストをエラーとして扱います。

4.3.2.11 レスポンスするページソースの文字エンコーディングを設定するフィルタ-

フィルタ名	ResponseCharacterEncodingFilter
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.filter.ResponseCharacterEncodingFilter

このフィルタは、レスポンスする画面ソースの文字エンコーディングを決定し、HttpServletResponse に設定します。

文字エンコーディングは、アクセスセキュリティ機能で決定された文字エンコーディングを採用します。アプリケーションが明示的に javax.servlet.http.HttpServletResponse#setContentType(String)を実行しなかった場合に限り、javax.servlet.http.HttpServletResponse#getWriter()
呼び出し時に javax.servlet.http.HttpServletResponse#setContentType(String)を利用して文字エンコーディングを指定します。

4.3.2.12 リクエストの文字エンコーディングを設定するフィルタ

フィルタ名	RequestCharacterEncodingFilter
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.filter.RequestCharacterEncodingFilter

リクエストの文字エンコーディングを決定するフィルタです。

文字エンコーディングは、アクセスセキュリティ機能が決定する文字エンコーディングを採用します。次のチェーンを実行する前に javax.servlet.http.HttpServletRequest#setCharactorEncoding(String)にアクセスセキュリティ機能から取得した文字エンコーディングを設定します。

4.3.2.13 im-JavaEE Framework におけるファイルアップロードを補助するフィルタ

フィルタ名	FileUploadFilter
クラス	jp.co.intra_mart.framework.base.service.FileUploadFilter

im-JavaEE Framework を利用してファイルのアップロードをする場合に利用するフィルタです。このフィルタを利用することにより、簡単にファイルのアップロードを実現することができます。
なお、このフィルタを利用しなくても RequestMessageBodyFilter を定義することにより、通常の手法でファイルアップロード機能を実現することができます（FileUploadFilter よりも RequestMessageBodyFilter を推奨）。

4.3.2.14 im-JavaEE Framework におけるロケールを決定するためのフィルタ

フィルタ名	IntramartLocaleFilter
クラス	jp.co.intra_mart.framework.base.service.IntramartLocaleFilter

このフィルタは、im-JavaEE Framework が動作するときのロケールを決定します。

4.3.2.15 im-JavaEE Framework におけるパラメータ設定を補助するフィルタ

フィルタ名	FrameworkParameterSettingFilter
クラス	jp.co.intra_mart.framework.base.service.FrameworkParameterSettingFilter

このフィルタは、im-JavaEE Framework が動作するときに必要なリクエストパラメータを加工します。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.2.16 POST リクエストを解析するフィルタ

フィルタ名	RequestMessageBodyFilter
クラス	jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.RequestMessageBodyFilter

このフィルタは POST メソッドでアクセスされた場合に、そのリクエスト内容を解析します。

標準では、以下の Content-Type に対して、このフィルタは処理をします。

- application/x-www-form-urlencoded
- multipart/form-data
- text/xml

このフィルタが動作すると、POST されたメッセージボディ部を解析し、
javax.servlet.http.HttpServletRequest をラップして次のチェーンに渡します。
元のリクエストをラップして作成した新しいリクエストは、メッセージボディ部の各値を#getParameter()等のパラメータ取得メソッドにより取得できるようになります。

このフィルタは、Flash で実装された標準画面とのデータ通信に必要です。このフィルタのマッピングを削除した場合、正常に画面が動作しなくなります。

4.3.2.16.1 Content-Type が multipart/form-data の場合

4.3.2.16.1.1 初期化パラメータ TemporaryFileThreshold

アップロードしたファイル、および、そのリクエストパラメータ値を一時ファイルに保管する際の閾値です。単位は「バイト」。デフォルト値は「0」です。
アップロードしたファイル、および、そのリクエストパラメータがこの設定値よりも大きなサイズの場合は、内容を一時ファイルに保管し、設定値よりも小さい場合は、内容をメモリに保管します。
一時ファイルを作成する方がシステムは安定しますが、ファイル I/O のオーバーヘッドのためにレスポンスタイムが長くなります。設定値を大きくした場合、大きなファイルもメモリ中で処理するため、レスポンスタイムが短くなりパフォーマンスが向上しますが、メモリ不足などの問題を誘発し易くなります。

4.3.2.16.1.2 初期化パラメータ TemporaryFileIOBufferSize

アップロードしたファイル、および、そのリクエストパラメータ値のデータ入出力時に利用するバッファサイズです。単位は「バイト」。デフォルトでは、8KB のバッファ領域を持ちます。

4.3.2.16.1.3 設定例

10MB 以上のファイルを一時ファイルに保管し、バッファサイズを 8KB に設定する例です。

```
<filter>
    <filter-name>RequestMessageBodyFilter</filter-name>
    <display-name>RequestMessageBodyFilter</display-name>
    <filter-class>jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.RequestMessageBodyFilter</filter-class>
      ・
      ・
      ・
    <init-param>
      <param-name>TemporaryFileThreshold</param-name>
      <param-value>10485760</param-value>
    </init-param>
    <init-param>
      <param-name>TemporaryFileIOBufferSize</param-name>
      <param-value>8192</param-value>
    </init-param>
</filter>
```

4.3.2.16.2 Content-Type が text/xml の場合

このフィルタが動作することによって、Request#getParameter()等のパラメータ取得メソッドを利用することにより、XML 形式データの値を簡単に参照することが出来ます。（これにより、Adobe Flash Player などのリッチクライアントから送信される XML 形式データを簡単に取り扱うことが出来ます）

Request#getParameter()の引数には、以下の形式に則ったパラメータ名を指定します。

- XML 形式データの各タグ名をセパレータ「/」で区切って指定する（ルートは「/」）
- 属性値を取得する際は、属性名の前に「@」を付与する。

4.3.2.16.2.1 プログラム例（スクリプト開発モデル）

```
/**
 * 以下の XML 形式データを取得します。
 * ----------------------------------------------
 * <?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?>
 * <account>
 *       <user-id>ueda</user-id>
 *       <name>上田</name>
 *       <role>
 *             <role-id sample-attr="サンプル属性">level1</role-id>
 *       </role>
 * </account>
 * ----------------------------------------------
 */
function init(request){
    var userId        = request.getParameterValue("/account/user-id");
    var name          = request.getParameterValue("/account/name");
    var roleId        = request.getParameterValue("/account/role/role-id");
    var sampleAttr = request.getParameterValue("/account/role/role-id/@sample-attr");

    Debug.browse(userId, name, roleId, sampleAttr);
}
```


Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.3.2.17 リクエストとレスポンスを管理するフィルタ

フィルタ名	HTTPContextHandlingFilter
クラス	jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.HTTPContextHandlingFilter

このフィルタは、現在のリクエストとレスポンスを管理し、どのプログラムからも現在のリクエストまたはレスポンスを簡単に取得できる環境を提供します。

Web アプリケーションの各プログラムでは、以下のクラスを利用して、現在のリクエストやレスポンスを得る事ができます。

jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.http.HTTPContextManager

このフィルタは、スクリプト開発モデルおよびアクセスセキュリティ機能で必須です。フィルタマッピングを削除すると、これらの機能が動作しなくなります。

4.3.2.18 リクエストログを出力するフィルタ

フィルタ名	RequestLogFilter
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.RequestLogFilter

このフィルタは、リクエストログにログを出力します。ログを残しておきたいものに対してマッピングしてください。

4.3.2.19 スクリプト開発モデルの実行環境を作るフィルタ

フィルタ名	JSSPContextFilter
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.jssp.JSSPContextFilter

このフィルタは、スクリプト開発モデルの実行環境を構築します。スクリプト開発モデルのサーブレット JSSPServlet および SecureJSSPServlet はもちろん、スクリプト開発モデルのソースを実行するプログラムが動作する環境には、必ず設定してください。

4.3.2.20 ブラウザにページをキャッシュさせないためのフィルタ1

フィルタ名	NoCacheFilter
クラス	jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.NoCacheFilter

このフィルタは、レスポンス時の HTTP ヘッダに以下の設定を追加する事で、ブラウザがページソースをキャッシュする事を防ぎます（ただし、実際にキャッシュされなくなるかどうかについては、ブラウザの実装に依存します）。

```
Pragma: no-cache
Cache-Control: no-cache
Expires: Tue, 22 Feb 2000 12:00:00 GMT
```

上記ヘッダの設定は、このフィルタが実行されて、次のチェーンを実行する前にレスポンスに対して設定します。したがって、次のチェーン以降でヘッダ情報を上書きした場合、このフィルタの設定が無効になります。

初期化パラメータ expires は、HTTP レスポンスヘッダ Expires に設定する値となります。

4.3.2.21 ブラウザにページをキャッシュさせないためのフィルタ2

フィルタ名	CacheControledResponseFilter
クラス	jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.HttpServletResponseEventFilter

このフィルタは、返却されるレスポンスが、指定された Content-Type の場合に、特定のヘッダをレスポンスに付与します。標準では、Content-Type が「text/html」の場合に以下のヘッダを付与します。

```
Pragma: no-cache
Cache-Control: no-cache
Expires: Tue, 22 Feb 2000 12:00:00 GMT
```

これにより、ブラウザがページソースをキャッシュする事を防ぎます。
（ただし、実際にキャッシュされなくなるかどうかについては、ブラウザの実装に依存します）

Content-Type、および、付与するヘッダの設定は、
「jp/co/intra_mart/resources/common/aid/jsdk/javax/servlet/filter/CacheControledResponseFilter-config.xml」で行います。

以下は、CacheControledResponseFilter-config.xml の初期設定です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<http-servlet-response-event-config>
  <validator>
    <validator-class>
      jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.impl.ContentTypeHttpServletResponseEventValidator
    </validator-class>
    <init-param>
      <param-name>primary-type</param-name>
      <param-value>text</param-value>
    </init-param>
    <init-param>
      <param-name>sub-type</param-name>
      <param-value>html</param-value>
    </init-param>
  </validator>

  <listener>
    <listener-class>
      jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.impl.HttpServletResponseEventListener4expire
    </listener-class>
    <init-param>
      <param-name>session</param-name>
      <param-value>true</param-value>
    </init-param>
  </listener>
  <listener>
    <listener-class>
      jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.impl.HttpServletResponseEventListener4header
    </listener-class>
    <init-param>
      <param-name>header-name</param-name>
      <param-value>Pragma</param-value>
    </init-param>
    <init-param>
      <param-name>header-value</param-name>
      <param-value>no-cache</param-value>
    </init-param>
  </listener>
  <listener>
    <listener-class>
      jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.impl.HttpServletResponseEventListener4header
    </listener-class>
    <init-param>
      <param-name>header-name</param-name>
      <param-value>Cache-Control</param-value>
    </init-param>
```

（次ページに続く）

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

```
（前ページからの続き）

    <init-param>
      <param-name>header-value</param-name>
      <param-value>no-cache</param-value>
    </init-param>
  </listener>
</http-servlet-response-event-config>
```

本機能は、バリデータとリスナの組み合わせで Content-Type、および、付与するヘッダを決定しています。

バリデータとは、
jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.HttpServletResponseEventValidator インターフェースを実装したクラスです。

リスナとは、
jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.HttpServletResponseEventListener インターフェースを実装したクラスです。

バリデータとリスナは、それぞれ複数設定することが可能です。
設定されている全てのバリデータの isValid(HttpServletRequest request, ExtendedHttpServletResponse response) メソッドが true を返却した場合、設定されている全てのリスナが実行されます。

intra-mart には、以下のバリデータ、および、リスナの実装クラスが用意されています。

4.3.2.21.1 バリデータ

4.3.2.21.1.1 jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.impl.ContentTypeHttpServletResponseEventValidator

レスポンスの Content-Type のプライマリタイプが初期化パラメータ「primary-type」に一致し、かつ、Content-Type のサブタイプが初期化パラメータ「sub-type」に一致する場合、isValid() メソッドが true を返却し、リスナを動作させます。

4.3.2.21.2 リスナ

4.3.2.21.2.1 jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.impl.HttpServletResponseEventListener4header

指定された名前と値を持つレスポンスヘッダを設定します。

初期化パラメータ「header-name」にヘッダの名前を設定し、
初期化パラメータ「header-value」にヘッダの値を設定してください。

4.3.2.21.2.2 jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.impl.HttpServletResponseEventListener4expire

Expires ヘッダを設定します。
Expires ヘッダの値は、初期化パラメータ「session」の設定によって変わります。

初期化パラメータ「session」が false と設定されている場合、現在日時が設定されます。

初期化パラメータ「session」が true と設定されている場合、
現在のセッションが有効であれば、セッションタイムアウトが発生する日時が設定され、
現在のセッションが無効であれば、現在日時が設定されます。

4.3.2.22 HTTP セッションを監視するフィルタ

フィルタ名	HttpSessionMonitoringFilter
クラス	jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.http.session.HttpSessionMonitoringFilter

このフィルタは、現在のリクエストに関連付けられた HttpSession を監視します。このフィルタを設定する事により、以下の API で HttpSession に関する情報を取得できるようになります。

jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.http.session.HttpSessionManager

4.3.2.23 画面遷移ログを出力するフィルタ

フィルタ名	TransitionLogFilter
クラス	jp.co.intra_mart.system.log.transition.TransitionLogFilter

このフィルタは、画面遷移ログにログを出力します。ログを残しておきたいものに対してマッピングしてください。

4.3.2.24 ForbiddenException をスローするフィルタ

フィルタ名	ForbiddenFilter
クラス	jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.ForbiddenFilter

このフィルタは、アクセス権限がないことを通知する例外「jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.exception.ForbiddenException」を常にスローします。

4.3.2.25 Web ブラウザのキャッシュを制御するためのフィルタ

フィルタ名	CacheControledResponseFilter
クラス	jp.co.intra_mart.common.aid.jsdk.javax.servlet.filter.HttpServletResponseEventFilter

このフィルタは、レスポンスの Content-Type が「text/html」の場合に限って、以下のレスポンスヘッダを付与します。（ただし、実際にキャッシュされなくなるかどうかについては、ブラウザの実装に依存します）

```
Expires: 有効期限
Pragma: no-cache
Cache-Control: no-cache
```

※ 有効期限は、現在時刻にセッションのタイムアウト時間を加えた時刻です。

初期化パラメータ component.builder.parameter に定義されている設定ファイルによって、付与するレスポンスヘッダを変更することが可能です。

標準:

jp/co/intra_mart/resources/common/aid/jsdk/javax/servlet/filter/CacheControledResponseFilter-config.xml

この設定ファイルは、クラスパスから検索されます。通常は、WEB-INF/classes に配置してください。

上記ファイルの「/http-servlet-response-event-config/listener/init-param」の「session」の値を、false にすると、Expires には現在時刻が設定されます。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

初期設定では、このフィルタはコメントアウトされています。このフィルタを用いてキャッシュ制御を行う場合は、Servlet 等に適宜マッピングを行ってください。

4.3.2.26 レスポンスを返却する際にロックを自動的に解除するためのフィルタ

フィルタ名	RequestScopeLockReleaseFilter
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.RequestScopeLockReleaseFilter

このフィルタは、現在のリクエストが終了する際（＝レスポンスを返却する際）に、自動的にロックを解除する API 専用のフィルタです。

- スクリプト開発モデル
  - Lock#beginRequestScope()
- JavaEE 開発モデル
  - jp.co.intra_mart.foundation.service.client.information.Lock#beginRequestScope()
  - jp.co.intra_mart.foundation.service.client.information.Lock#beginRequestScope(long)

なお、初期設定では、このフィルタは記述されていません。上記 API を利用する場合は、web.xml にフィルタの設定を追加してください。

```
<!--******************** RequestScopeLockReleaseFilter ********************-->
<filter>
    <filter-name>RequestScopeLockReleaseFilter</filter-name>
    <filter-class>jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.RequestScopeLockReleaseFilter</filter-class>
</filter>

<filter-mapping>
    <filter-name>RequestScopeLockReleaseFilter</filter-name>
    <url-pattern>/*</url-pattern>
</filter-mapping>
<!--******************** RequestScopeLockReleaseFilter ********************-->
```

4.3.2.27 ログインしている状態にログイン画面を表示しようとした際に警告ページを表示するためのフィルタ

フィルタ名	InitialPageSessionHandlingFilter
クラス	jp.co.intra_mart.foundation.security.filter.InitialPageSessionHandlingFilter

クッキーにセッション ID が残っている状態で、ログイン画面がリクエストされた場合に、そのリクエストのセッションがログインしている状態の場合、警告ページを表示するフィルタです。このフィルタを設定することで、システム利用者がブラウザ制限事項(5)となるオペレーションを実行したときに警告を表示することができるようになります。

4.3.2.28 アップロードするファイルをチェックするフィルタ

フィルタ名	UploadFileCheckFilter
クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.UploadFileCheckFilter

このフィルタは、設定ファイルによって指定されたチェックロジッククラスを使用して、アップロードされたファイルをチェックします。

チェックロジッククラスは設定ファイルに記載した順に実行されます。全てのチェックを行った結果、例外が発生しなかった場合に doFilter が呼び出されます。例外が発生した場合はエラー画面へ遷移します。

チェックロジッククラスは、jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.FileChecker を実装しなくてはなりません。

エラー画面は、4.3.2.1 エラーページを制御するフィルタ によって制御されます。標準で提供するチェッククラスを利用する場合、以下のような設定が必要です。

```
<mapping>
  <exception-type>
    jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.exception.IllegalFileExtensionException
  </exception-type>
  <location>
    /alert/file_extension_error.jsp
  </location>
</mapping>
<mapping>
  <exception-type>
    jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.exception.IllegalFileFormatException
  </exception-type>
  <location>
    /alert/file_contents_error.jsp
  </location>
</mapping>
<mapping>
  <exception-type>
    jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.exception.NotAcceptableFileException
  </exception-type>
  <location>
    /alert/file_error.jsp
  </location>
</mapping>
```

チェッククラスの設定は初期化パラメータ config に定義されている XML 形式の設定ファイルに記述します。

標準: jp/co/intra_mart/resources/system/servlet/filter/UploadFileCheckFilter.xml

この設定ファイルは、クラスパスから検索されます。通常は、WEB-INF/classes に配置してください。

設定ファイルの構成と設定例

属性			説明
check-class			チェッククラスの設定
	name		クラス名
	init-param		初期パラメータ
		param-name	パラメータ名
		param-value	パラメータ値

参考: jp/co/intra_mart/system/servlet/filter/RequestLimitControlFilter.xsd

このフィルタを有効にするには、web.xml を以下のように修正します。

web.xml の記述例

```
...
<filter>
    <filter-name>UploadFileCheckFilter</filter-name>
    <filter-class>jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.UploadFileCheckFilter</filter-class>
    <init-param>
        <param-name>config</param-name>
        <param-value>jp/co/intra_mart/resources/system/servlet/filter/UploadFileCheckFilter.xml</param-value>
    </init-param>
</filter>
```


Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

```
…
<filter-mapping>
    <filter-name>UploadFileCheckFilter</filter-name>
    <url-pattern>*.jsp</url-pattern>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
    <filter-name>UploadFileCheckFilter</filter-name>
    <servlet-name>JSSPServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
    <filter-name>UploadFileCheckFilter</filter-name>
    <servlet-name>SecureJSSPServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
    <filter-name>UploadFileCheckFilter</filter-name>
    <servlet-name>ServiceServlet</servlet-name>
</filter-mapping>
…
```

標準ではチェッククラスとして以下のクラスを提供します。

4.3.2.28.1 FileExtensionChecker

クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.FileExtensionChecker

このクラスは、チェック対象のページ毎に指定されたアップロードを許可する拡張子と、アップロードされたファイルの拡張子をチェックします。許可する拡張子の中にアップロードされたファイルの拡張子が含まれない場合例外をスローします。スローする例外は次のクラスです。

jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.exception.IllegalFileExtensionException

このクラスを利用してアップロードされたファイルのチェックを行いたい場合は、UploadFileCheckFilter の設定ファイルに以下のように指定します。

```
<check-classes>
  …
  <check-class>
      <name>jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.FileExtensionChecker</name>
      <init-param>
          <param-name>config</param-name>
          <param-value>jp/co/intra_mart/resources/system/servlet/filter/accept-extension.properties</param-value>
      </init-param>
  </check-class>
  …
</check-classes>
```

チェック対象のページとアップロードを許可する拡張子の対は、プロパティファイルとして以下のように定義します。ファイル名は UploadFileCheckFilter の設定ファイルで指定した値にします。上記の場合、jp/co/intra_mart/resources/system/servlet/filter/accept-extension.properties になります。

```
sample/filer/filer.jssp=png
/sample-fileupload.service=png,jpg,gif
```

このような設定の場合、sample/filer/filer.jssp へアップロードできるファイルは、拡張子が png となっているファイルだけになります。また/sample-fileupload.service へは、拡張子が png, jpg, gif となっているファイルになります。上記 2 つのページ以外へアップロードするファイルには制限がかからず、全てのファイルをアップロードすることができます。

この設定ファイルはクラスパスから検索されます。通常は、WEB-INF/classes に配置してください。

4.3.2.28.2 MimeTypeChecker

クラス	jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.MimeTypeChecker

このクラスは、チェック対象のページ毎に、アップロードされたファイルの内容と拡張子が一致しているかどうかをチェックします。ファイルの内容と拡張子が一致していない場合例外をスローします。スローする例外は次のクラスです。

jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.exception.IllegalFileFormatException

一致するかどうかは、ファイルの内容から推測した MimeType と、ファイルの拡張子から推測した MimeType の比較によって行います。具体的には、拡張子から推測した MimeType のリストに、ファイルの内容から推測した MimeType が含まれているかどうかをチェックします。

MimeType の推測には、MimeUtil を利用しています。
MimeUtil については http://sourceforge.net/projects/mime-util/ を参照してください。

このクラスを利用してアップロードされたファイルのチェックを行いたい場合は、UploadFileCheckFilter の設定ファイルに以下のように指定します。

```
<check-classes>
  ...
  <check-class>
    <name>jp.co.intra_mart.system.servlet.filter.filechecker.MimeTypeChecker</name>
    <init-param>
      <param-name>config</param-name>
      <param-value>jp/co/intra_mart/resources/system/servlet/filter/contents-check-page.properties</param-value>
    </init-param>
  </check-class>
  ...
</check-classes>
```

チェック対象のページは、プロパティファイルとして以下のように定義します。ファイル名は UploadFileCheckFilter の設定ファイルで指定した値にします。上記の場合、
jp/co/intra_mart/resources/system/servlet/filter/contents-check-page.properties になります。

```
sample/filer/filer.jssp
/sample-fileupload.service
```

このような設定の場合、sample/filer/filer.jssp と、/sample-fileupload.service へアップロードされるファイルについて内容と拡張子が一致するかどうかをチェックします。上記 2 つのページ以外へアップロードするファイルにはチェックを行わず、全てのファイルをアップロードすることができます。

この設定ファイルはクラスパスから検索されます。通常は、WEB-INF/classes に配置してください。

4.3.2.28.2.1 MimeType の推測に関する注意点

ファイルの内容からの MimeType の推測は、ファイルのヘッダを読み込み、ファイルのヘッダに埋め込まれたファイル形式の識別子のデータベース(magic-mime ファイル)との照合により行われます。

従いまして、データベースに存在しないファイル形式からは正常に MimeType を推測することができません。新規にファイル形式を追加したい場合は、クラスパス(doc/imart/WEB-INF/classes)配下に magic.mime ファイルを作成

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

し、適切な内容を書き込んでください。magic.mime ファイルの書き方については MimeUtilや、magic(5)などを参照してください。なお、デフォルトのデータベースは、MimeUtil の jar ファイル内に存在します。

拡張子からの MimeType の推測は、拡張子と MimeType のマッピングファイルにより行われます。マッピングファイルに存在しない拡張子からは正常に MimeType を推測することができません。新規に拡張子を追化したい場合は、クラスパス(doc/imart/WEB-INF/classes)配下に mime-types.properties ファイルを作成し適切な内容を書き込んでください。ファイルの書き方については MimeUtil などを参照してください。なお、デフォルトのデータベースは、MimeUtil の jar ファイル内に存在します。

4.3.2.28.2.2 MimeType の誤検出に関する注意点

ファイルの内容からの MimeType の推測は、ファイルのヘッダを読み込むことで行ないます。従いまして、ファイルのヘッダだけではファイルの内容が特定できないファイルについては MimeType を正確に検出できません。Microsoft Office ファイルがこれにあたります。

例えば Excel97 形式のファイルは、Office97 形式のファイルとして認識され、MimeType として application/msword が返却されます。また、Office2007 以降の OpenXML 形式のファイルは、application/zip が返却されます。

一方、デフォルトのマッピングファイルを使用する場合、拡張子からの MimeType の推測では.xls という拡張子からは MimeType として application/vndms-excel,application/excel,application/x-excel,application/x-msexcel が返却されます。

このままでは、ファイルの内容と拡張子が一致しないことになるので、設定ファイルの修正が必要です。Excel97 形式のファイルを追加する場合、以下のような内容で設定ファイルを作成します。

```
xls=application/vndms-excel,application/excel,application/x-excel,application/x-msexcel,application/msword
```

作成したファイルの名前を mime-types.properties とし、doc/imart/WEB-INF/classes に配置することで、ファイルの内容と拡張子が一致することになります。

4.4 メール送信設定

メール送信 API を使用して送信されるメールをカスタマイズするための設定です。設定を編集することでメールのエンコード、キャラクターセットの変更や SMTP 認証などの機能を利用することが可能です。
この設定を利用することが可能な API は以下のものです。

- スクリプト開発モデル
  MailSender オブジェクト

- JavaEE 開発モデル
  jp.co.intra_mart.foundation.mail.javamail.JavaMailSender.class

4.4.1 conf/mail/contentType.properties

contentType.properties はメールに添付されたファイルの Content-Type を決定するための設定です。
具体的には、添付ファイル付きのメールを送信するときに生成されるマルチパートメールの、Content-Type ヘッダに付加される値です。
値は添付ファイルの拡張子によって決定されます。以下は設定例です。

```
.txt = text/plain
.gif = image/gif
.jpg = image/jpeg
.png = image/png
```

contentType.properties に「拡張子=Content-Type」の形式で記述し、添付ファイルの拡張子に該当するものが存在すれば、設定値が Content-Type ヘッダに適用されます。設定が存在しない拡張子の場合は Content-Type ヘッダに「application/octet-stream」が設定されます。

4.4.2 conf/mail/encode.properties

送信メールのキャラクターセットやエンコードを設定します。設定はロケール毎に設定可能です。
メール送信 API に与えられたロケールに関連付けられた encode.properties が自動的に適用され、その設定値からキャラクターセットやエンコードを決定します。
例えばメール送信 API に日本語ロケールを与えます。

- スクリプト開発モデル

```
var mail = new MailSender("ja");
```

- JavaEE 開発モデル

```
MailSender mail = JavaMailSender(Locale.JAPANESE);
```

この場合に適用される設定は日本語ロケールに関連付けられた encode.properties となります。関連付けは encode.properties のファイル名で行われ、「encode_ja.properties」ファイルの設定値が適用されます。
以下は encode.properties の設定項目一覧です。

charset	送信メールのキャラクターセット。メール送信 API はこの設定値で指定されたキャラクターセットに変換しメールを送信する。 （例 「iso-2022-jp」、「UTF-8」）
mimeEncoding	送信メールのエンコーティング。「B」もしくは「Q」を指定
contentTransferEncoding	送信メールの Content-Transfer-Encoding ヘッダに設定される値。

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

4.4.3 conf/mail/javaMail.properties

メール送信 API の内部実装である、JavaMail に関する設定です。

xMailer	送信メールの「X-Mailer」ヘッダに設定する値。
Debug	JavaMail にデバックオプションを設定する。「true」、「false」を指定。 「true」を設定した場合、標準出力にデバックログを出力する。
smtpConnectionTimeout	SMTP サーバとの接続タイウアウト時間。ミリ秒で指定する。-1 を指定した場合無制限となりタイムアウトされない。
smtpTimeout	SMTP サーバとの入出力タイウアウト時間。ミリ秒で指定する。-1 を指定した場合無制限となりタイムアウトされない。

4.4.4 conf/mail/mailSendListener.xml

メール送信時に実行されるリスナを設定します。リスナを利用するには、以下のインターフェースの実装クラスを作成しクラスパスに配置します。

- jp.co.intra_mart.foundation.mail.javamail.listener.MailSendListener

- mailSendListener.xml に MailSendListener の実装クラスを記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<listener-config>
  <listener>
    <listener-class>foo.SampleListener</listener-class>
  </listener>
</listener-config>
```

- リスナは複数記述することが可能です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<listener-config>
  <listener>
    <listener-class>foo.AAAListener</listener-class>
  </listener>
  <listener>
    <listener-class>foo.BBBListener</listener-class>
  </listener>
</listener-config>
```

- リスナはメール送信を行う前に、記述されている順に実行されます。

MailSendListener#onSendMail()メソッドで送信メールの内容に任意の処理を行い適切な値を返却してください。

```
public class SampleListener implements MailSendListener {
    public int onSendMail(MailSendEvent event) throws MailSenderException {

        // 任意の処理

        return CONTINUE;
    }
}
```

返却値によってリスナの制御やメール送信の可否を制御できます。以下のいずれを返却してください。

MailSendListener.CONTINUE	リスナ処理を続行し、メール送信を行います。
MailSendListener.SKIP_LISTENER	リスナ処理を中止し、メール送信を行います。
MailSendListener.STOP_MAILSEND	リスナ処理を中止し、メール送信を中止します。

「CONTINUE」を返却した場合、処理は次のリスナに移行します。次のリスナが存在しない場合はメールを送信します。通常はこれを返却してください。「SKIP_LISTENER」を返却した場合、以降のリスナは省略され、メールを送信します。「STOP_MAILSEND」を返却すると以降のリスナは省略され、かつメール送信は行われません。

4.4.4.1 HalfKanaTransrateListener

HalfKanaTransrateListener は IWP/AF に標準で含まれているメール送信リスナです。 HalfKanaTransrateListener はメールの件名および本文に含まれている半角カナ文字を全角カナ文字に変換します。

HalfKanaTransrateListener を有効にするには mailSendListener.xml に以下のような設定を記述する必要があります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<listener-config>
  <listener>
    <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.mail.javamail.listener.impl.HalfKanaTransrateListener </listener-class>
  </listener>
</listener-config>
```

変換対象となる半角カナ文字は以下のものです。

ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヲ	ン									

ァ	ィ	ゥ	ェ	ォ	ャ	ュ	ョ	ッ

ｶﾞ	ｷﾞ	ｸﾞ	ｹﾞ	ｺﾞ	ｻﾞ	ｼﾞ	ｽﾞ	ｾﾞ	ｿﾞ	ﾀﾞ	ﾁﾞ	ﾂﾞ	ﾃﾞ	ﾄﾞ	ﾊﾞ	ﾋﾞ	ﾌﾞ	ﾍﾞ	ﾎﾞ

ﾊﾟ	ﾋﾟ	ﾌﾟ	ﾍﾟ	ﾎﾟ

。	、	・	「	」	゛	゜

4.4.5 conf/mail/smtpAuth.properties

メール送信時の SMTP 認証を設定します。SMTP 認証を有効にする場合はこの設定ファイルを編集してください。SMTP 認証に使用するメールアカウントは固定です。

enable	SMTP 認証の有効・無効。「true」、「false」を指定。 「true」を設定した場合 SMTP 認証を行う。
user	SMTP 認証に使用するメールアカウント
password	メールアカウントのパスワード

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

5 サポート

弊社では、Web にて弊社製品に対するサポートおよび技術情報の公開を行っております。当製品に関して不明な点などがございましたら、下記 URL にてホームページにアクセスしていただき、情報検索または弊社サポート窓口までご相談下さい。

intra-mart Developer Support Site

http://www.intra-mart.jp/support/intramart.cgi

6 索引

H

HTTP リクエスト
intra-mart/platform/service/application/http/accept/query/length/max ……33
intra-mart/platform/service/application/http/accept/queue ……32
intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/query/length/min ……35
intra-mart/platform/service/application/http/synchronized/queue ……34

J

Java
intra-mart/platform/java ……102
intra-mart/platform/java/compiler/class/archive/directory ……113
intra-mart/platform/java/compiler/class/archive/file ……112
intra-mart/platform/java/compiler/class/path ……111
intra-mart/platform/java/home ……103

P

Permanent-Data Service
intra-mart/platform/service/permanent/data-pool/delay-time ……77
intra-mart/platform/service/permanent/data-pool/size ……78
intra-mart/platform/service/permanent/history/enable ……79
intra-mart/platform/service/permanent/history/everyday ……82
intra-mart/platform/service/permanent/history/everyday/enable ……83
intra-mart/platform/service/permanent/history/time ……80
intra-mart/platform/service/permanent/history/time/enable ……81
intra-mart/platform/service/permanent/treasure-root ……76

R

Resource Service
intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/general/directory ……96
intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/international/directory ……98
intra-mart/platform/service/resource/jssp/source-path/international/local ……97

S

Schedule Service
intra-mart/platform/service/scheduler/check-time ……88
intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/class-name ……89
intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/parameter/local/enable ……90
intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/parameter/retry/count ……91

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

intra-mart/platform/service/scheduler/component/configuration-handler/parameter/retry/wait-time …… 92
intra-mart/platform/service/scheduler/component/event-listener/class-name …… 93
intra-mart/platform/service/scheduler/component/event-listener/parameter/security/account …… 94
intra-mart/platform/service/scheduler/connection-url …… 85
intra-mart/platform/service/scheduler/load-time …… 87
Serialization Service
intra-mart/platform/service/serialization/application-lock …… 100
Server Manager
intra-mart/administration/host/address …… 11
intra-mart/administration/network /port …… 12
intra-mart/administration/network/server/backlog …… 14
intra-mart/administration/network/server/keep-alive …… 16
intra-mart/administration/network/server/threads …… 15
intra-mart/administration/network/timeout …… 13
Service
intra-mart/platform/service/application/enable …… 31
intra-mart/platform/service/memory/external/enable …… 74
intra-mart/platform/service/memory/permanent/enable …… 75
intra-mart/platform/service/resource/enable …… 95
intra-mart/platform/service/scheduler/enable …… 84
intra-mart/platform/service/serialization/enable …… 99
intra-mart/platform/service/storage/enable …… 72
Service Platform
intra-mart/platform/host/address …… 17
intra-mart/platform/host/id …… 18
intra-mart/platform/network/client/connection …… 24
intra-mart/platform/network/client/filter …… 26
intra-mart/platform/network/client/filter /connection/address …… 27
intra-mart/platform/network/client/filter /connection/capacity …… 29
intra-mart/platform/network/client/filter /connection/port …… 28
intra-mart/platform/network/client/keep-alive …… 25
intra-mart/platform/network/inspection/status/keep-alive …… 30
intra-mart/platform/network/port …… 19
intra-mart/platform/network/server/backlog …… 21
intra-mart/platform/network/server/keep-alive …… 23
intra-mart/platform/network/server/threads …… 22
intra-mart/platform/network/timeout …… 20
Storage Service
intra-mart/platform/service/storage/file-root …… 73

W

Web サービス
intra-mart/platform/ervice/application/jssp/soap-client/wsdl/storage/import-location/sub-dirs/sub-dir …… 71
intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/javac-encoding …… 67
intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/javac-verbose …… 68
intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/javac-xmx …… 69

intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/mode ……64
intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/work-dir ……66
intra-mart/platform/service/application/jssp/soap-client/wsdl/storage/import-location/suffixes/suffix ……70

X

XML 形式データ
RequestMessageBodyFilter ……133

あ

アクセスセキュリティ
intra-mart/platform/service/application/popup-window ……42
intra-mart/platform/service/application/session-auto-keep ……41
アプリケーションロック機能
intra-mart/platform/service/serialization/application-lock ……100

か

画面
intra-mart/platform/service/application/tree-view ……43

き

キャッシュ機能
intra-mart/platform/service/permanent/data-pool/delay-time ……77
intra-mart/platform/service/permanent/data-pool/size ……78

こ

コンパイラ
/resource-file/javascript/compiler/enable ……115
/resource-file/view/compiler/enable ……116

さ

サーバプロセス
intra-mart/platform/java/server/command/argument ……110
intra-mart/platform/java/server/command/exefile ……108
intra-mart/platform/java/server/command/option ……109
サービス
Application Runtime ……31
Permanent-data Service ……75
Resource Service ……95
Schedule Service ……84
Serialization Service ……99
Shared-memory Service ……74
Storage Service ……72

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

サーブレット
BPWAppletServlet ……121
BPWDesignerInsertServlet ……122
BPWDesignerSelectServlet ……122
BPWFileDownloadServlet ……122
CertServlet ……124
DispFlowInfoServlet ……121
EJBServlet ……124
GetActivityCombDataServlet ……123
GetFlowIconServlet ……121
GetProcessDefCombDataServlet ……123
GetVersionCombDataServlet ……123
GroupSuperUserInitialServlet ……119
HTTPActionEventListener ……120
ImageDrawer ……121
JsspRpcServlet ……118
JSSPServlet ……117
MKJSServlet ……125
postlet ……119
pushlet ……119
SecureJSSPServlet ……117
ServiceServlet ……120
SuperUserInitialServlet ……119
UserCertificationServlet ……118
UserInitialServlet ……118
UserInitialServletForMobile ……118
最適化
/resource-file/javascript/optimize/level ……116

す

スクリプト開発モデル
intra-mart/platform/service/application/jssp/locale/handler-class ……49
スクリプト開発モデル
intra-mart/platform/service/application/javascript-warning-trace ……40
intra-mart/platform/service/application/jssp/charset/handler-class ……50
intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general/archive ……57
intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general/classes ……56
intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/general/libraries ……58
intra-mart/platform/service/application/jssp/class-path/international ……59
intra-mart/platform/service/application/jssp/compile/output/script ……51
intra-mart/platform/service/application/jssp/compile/output/view ……52
intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/browse/enable ……60
intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/console/enable ……63
intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/print/enable ……61
intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/write/enable ……62
intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/general/directory ……53

intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/international/directory ……55
intra-mart/platform/service/application/jssp/source-path/international/local ……54

せ

セッションタイムアウト
intra-mart/platform/service/application/session-auto-keep ……41

て

データベース
intra-mart/platform/service/application/database/ prepared-modify ……48
intra-mart/platform/service/application/database/data/old-date-type ……44
intra-mart/platform/service/application/database/data/sql-server2000 ……46
intra-mart/platform/service/application/database/data/timestamp-is-date ……45
intra-mart/platform/service/application/database/fast-fetch ……47
デバッグ
intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/browse/enable ……60
intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/console/enable ……63
intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/print/enable ……61
intra-mart/platform/service/application/jssp/debug/write/enable ……62

な

内部通信用ポート
intra-mart/platform/service/application/http/controller/network/port ……36

ね

ネットワーク
intra-mart/platform/service/application/http/controller/network/port ……36
intra-mart/platform/service/application/smtp-server/host ……37
intra-mart/platform/service/application/smtp-server/port ……38

は

バックアップ
intra-mart/platform/service/permanent/history/enable ……79
intra-mart/platform/service/permanent/history/everyday ……82
intra-mart/platform/service/permanent/history/everyday/enable ……83
intra-mart/platform/service/permanent/history/time ……80
intra-mart/platform/service/permanent/history/time/enable ……81

ふ

ファイルアップロード
RequestMessageBodyFilter ……133
フィルタ

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

AbsoluteLinkFilter ……130
ActiveSessionFilter ……130
CacheControledResponseFilter ……138
DuplicateLoginHandlingFilter ……131
ExceptionHandlingFilter ……126
FileUploadFilter ……132
ForbiddenFilter ……138
FrameworkParameterSettingFilter ……132
HTTPContextHandlingFilter ……135
HttpSessionMonitoringFilter ……138
InitialPageSessionHandlingFilter ……139
IntramartLocaleFilter ……132
JSSPContextFilter ……135
LuxuryResponseWriterFilter ……129
NoCacheFilter ……135
RequestCharacterEncodingFilter ……132
RequestControlFilter ……128
RequestLogFilter ……135
RequestMessageBodyFilter ……133
RequestQueryLengthMonitoringFilter ……127
RequestScopeLockReleaseFilter ……139
ResponseCharacterEncodingFilter ……131
ResponseMonitoringFilter ……126
SessionFilter ……130
TransitionLogFilter ……138
URLAccessFilter ……131

フェールセーフ機能

intra-mart/platform/fail-safe/enable ……114

め

メール

conf/mail/contentType.properties ……144
conf/mail/encode.properties ……144
conf/mail/javaMail.properties ……145
conf/mail/mailSendListener.xml ……145
conf/mail/smtpAuth.properties ……146
intra-mart/platform/service/application/smtp-server/host ……37
intra-mart/platform/service/application/smtp-server/mailbox-check ……39
intra-mart/platform/service/application/smtp-server/port ……38

メモリ関連

intra-mart/platform/java/server/memory/xms/size ……104
intra-mart/platform/java/server/memory/xms/unit ……105
intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/size ……106
intra-mart/platform/java/server/memory/xmx/unit ……107

も

文字コード
/resource-file/charset …… 115
intra-mart/server-charset …… 101

Copyright 2000-2014 株式会社 NTT データ イントラマート All rights Reserved.

intra-mart WebPlatform/AppFramework Ver.7.0
Service Platform 設定ガイド

2014/05/30 第10版

Copyright 2000-2014 株式会社NTTデータ イントラマート
All rights Reserved.
TEL: 03-5549-2821
FAX: 03-5549-2816
E-MAIL: info@intra-mart.jp
URL: http://www.intra-mart.jp/